

フィリピン共和国  
農村生活改善研修強化計画  
計画打合せ調査団報告書

平成10年12月

国際協力事業団

JICA LIBRARY



J 1147930 (0)

農開技

JR

98-11

平成10年12月

国際

18  
11  
DT

RARY







1147930 (0)

**フィリピン共和国  
農村生活改善研修強化計画  
計画打合せ調査団報告書**

平成10年12月

**国際協力事業団**

## 序 文

国際協力事業団は、フィリピン共和国関係機関との討議議事録(R/D)等に基づき、フィリピン農村生活改善研修強化計画に関する技術協力を平成8年6月15日から開始し、今般、平成9年9月8日から9月20日まで(社)農村生活総合研究センター理事長 大島緩子氏を団長とする計画打合せ調査団を現地に派遣しました。

同調査団は、本プロジェクトの本格的展開にあたり、詳細年次計画を検討し円滑な運営を行うため、フィリピン国政府関係者と協議及び現地調査を行いました。

本報告書は、同調査団により協議結果等を取りまとめたものであり、今後、本プロジェクトの運営にあたり活用されることを願うものです。

終わりに、この調査にご協力とご支援を頂いた内外の関係各位に対し、心から感謝の意を表します。

平成10年12月

国際協力事業団  
農業開発協力部  
部長 戸 水 康 二

(Clarín)

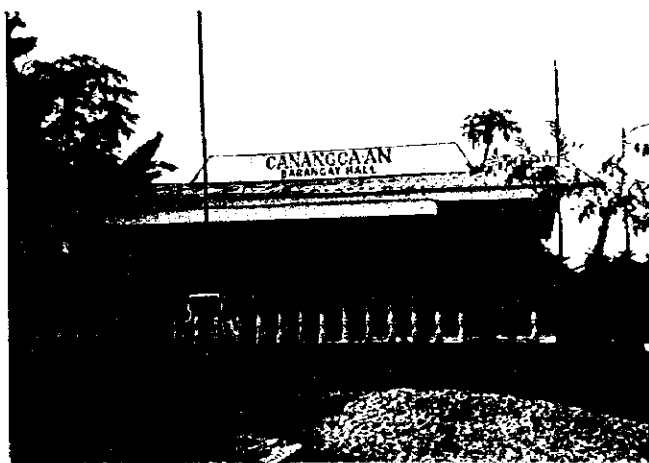


海岸部 漁民の住居

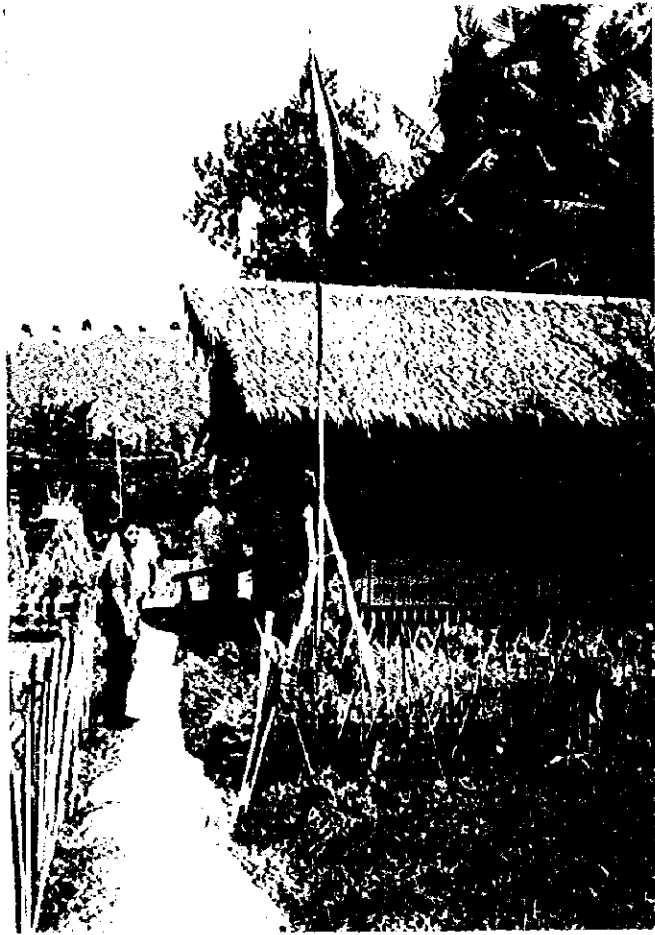


漁民の生活風景

(Corella)



Canangca'an パイロット村落（バラングイ）における集会所



デュエロ生活開発センターの外観



同開発センター実証圃





Duero 市場風景 (毎週木曜日に開催)

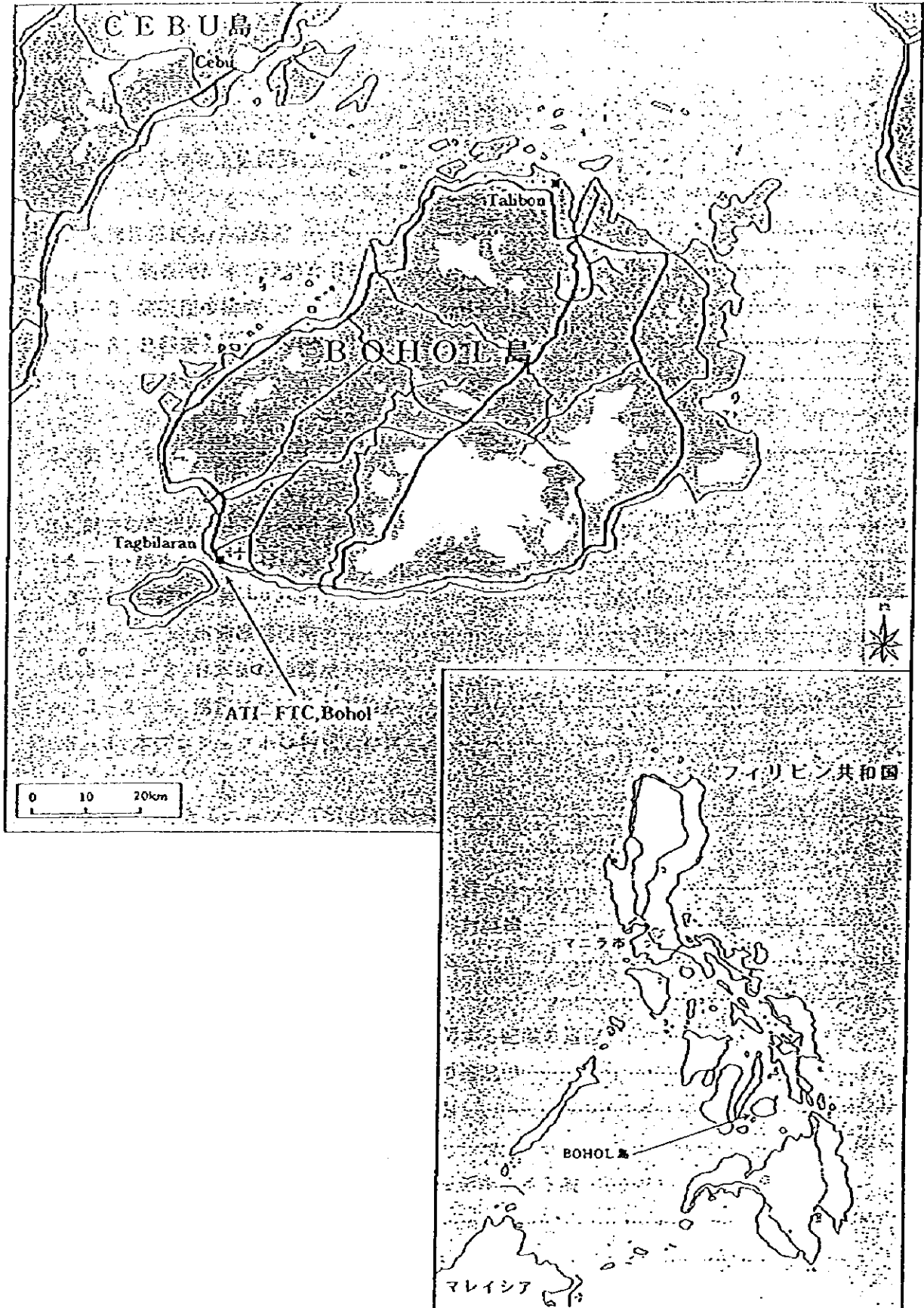


Loboc 民家におけるかまど  
(この家には他にガスコンロも併用しているが、この方が安価)

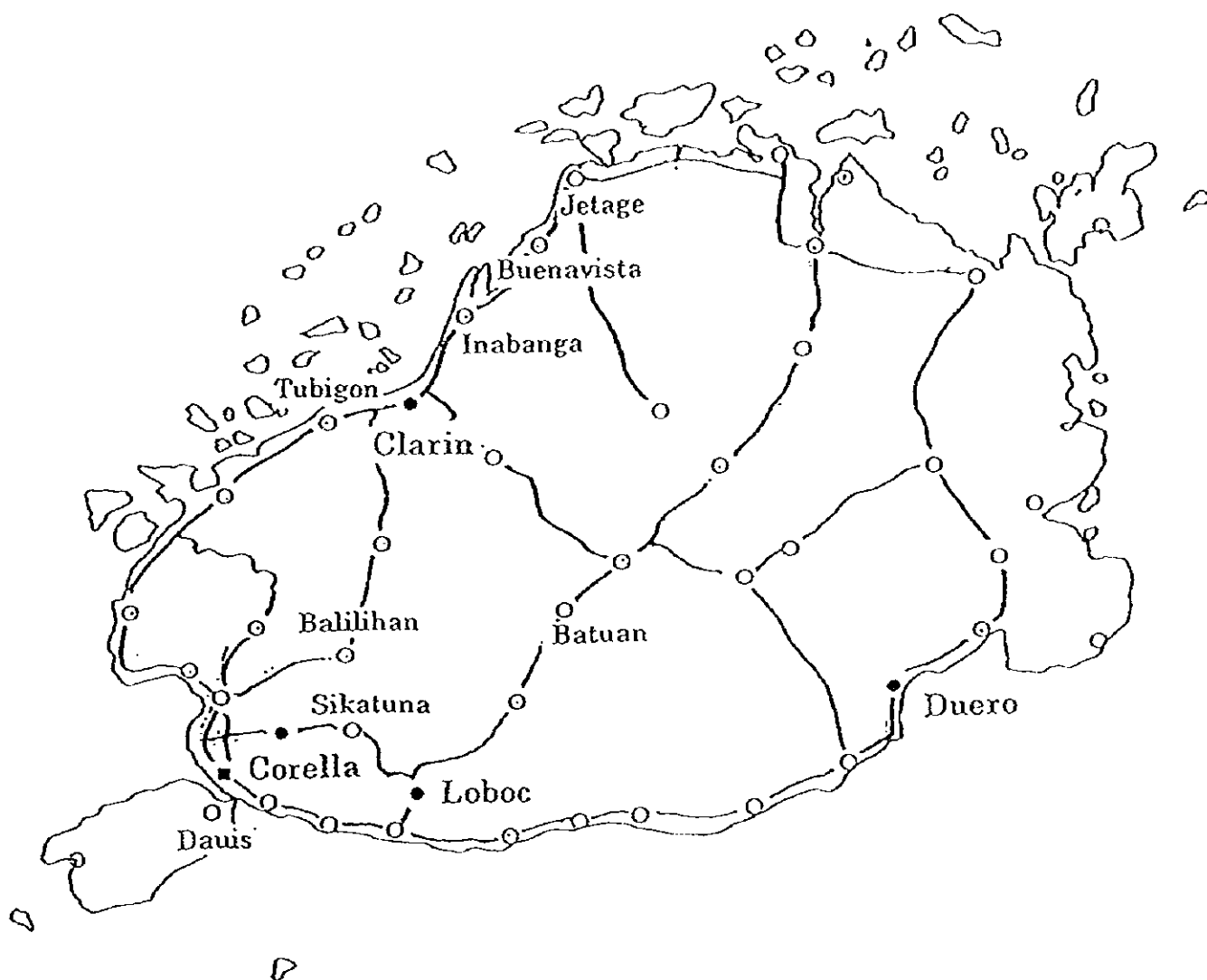


道ばたにある集会所

# プロジェクトサイト位置図



## Pilot Municipalities on TSEP-RLI



### Pilot Barangays

| Region         | Municipality | Barangay    | Characteristics for production |
|----------------|--------------|-------------|--------------------------------|
| Eastern        | Duero        | San Isidoro | Paddy Production area          |
| Interior       | Loboc        | Bagumbayan  | Fruit Production Area          |
| Northern       | Clarin       | Tangaran    | Fishery Production Area        |
| Western/ Other | Corella      | Canangca'an | Root Crops Production Area     |

### Control Barangay

| Region         | Municipality | Barangay   | Characteristics for production |
|----------------|--------------|------------|--------------------------------|
| Western/ Other | Corella      | Canapnapan | Root Crops Production Area     |



# 目 次

序 文  
写 真  
地 図

|   |    |
|---|----|
| 第1章 計画打合せ調査団の派遣 .....                                 | 1  |
| 1-1 調査団派遣の経緯と目的 .....                                 | 1  |
| 1-2 調査団の構成 .....                                      | 2  |
| 1-3 調査日程 .....  | 3  |
| 1-4 主要面談者 .....                                       | 4  |
| 第2章 要 約 .....   | 6  |
| 2-1 プロジェクト目標 .....                                    | 6  |
| 2-2 活動達成状況 .....                                      | 6  |
| 2-3 投入状況 .....  | 6  |
| 2-4 詳細暫定実施計画 .....                                    | 6  |
| 2-5 調査及び協議結果要約 .....                                  | 7  |
| 2-5-1 プロジェクト全般への調査団コメント .....                         | 7  |
| 2-5-2 プロジェクト運営・実施 .....                               | 7  |
| 第3章 プロジェクト実施体制 .....                                  | 9  |
| 3-1 プロジェクトの管理 .....                                   | 9  |
| 3-2 本プロジェクトの実施計画 .....                                | 9  |
| 第4章 プロジェクト活動進捗状況 .....                                | 11 |
| 4-1 投入状況 .....  | 11 |
| 4-1-1 日本側投入 .....                                     | 11 |
| 4-1-2 フィリピン側投入 .....                                  | 12 |
| 4-2 村落基礎調査 .....                                      | 15 |
| 4-2-1 ベースライン調査の前段階 .....                              | 16 |
| 4-2-2 地域社会概況調査 (Community Survey) .....               | 17 |
| 4-2-3 個別世帯調査 (Household Survey) .....                 | 18 |
| 4-2-4 個別実態調査 (Individual Sampling Survey) .....       | 21 |
| 4-2-5 今後の展開 .....                                     | 23 |
| 4-3 パイロット活動の実施 .....                                  | 24 |
| 4-3-1 パイロット村落 (バランガイ) における農村生活改善活動の<br>計画・実施の日程 ..... | 24 |

|                  |                                 |    |
|------------------|---------------------------------|----|
| 4-3-2            | プロジェクトサイトにおける農村生活改善活動           | 25 |
| 4-3-3            | 生活改善活動の計画・実施に関する留意点             | 27 |
| 4-4              | ボホール農民訓練センターにおける研修活動            | 28 |
| 4-4-1            | ボホール農民訓練センターの研修実態               | 28 |
| 4-4-2            | ボホール州内他機関研修活動実態                 | 30 |
| 4-4-3            | 今後の展開                           | 30 |
| 4-5              | 関係機関との連携強化                      | 31 |
| 4-5-1            | 関連機関実態調査                        | 31 |
| 4-5-2            | 農業普及実態調査                        | 33 |
| 4-5-3            | 農業研修局各研修センターの実態調査               | 35 |
| 第5章 プロジェクト運営の留意点 |                                 | 37 |
| 5-1              | 農業研修局12か年研修強化計画                 | 37 |
| 5-2              | ボホールにおける農村生活改善パイロット活動の展開        | 37 |
| 5-3              | プロジェクト実施体制                      | 37 |
| 5-4              | フィリピンにおける他の関連プロジェクトとの連携         | 37 |
| 5-5              | 「新」ボホール農民訓練センターの建設              | 38 |
| 5-6              | プロジェクト目標達成指標                    | 38 |
| 5-7              | 日本側協力対応                         | 38 |
| 付属資料             |                                 |    |
| 1.               | ミニッツ(英文)                        | 41 |
| 2.               | ミニッツ(和文)                        | 61 |
| 3.               | 暫定実施計画/詳細暫定実施計画比較               | 68 |
| 4.               | 主要協議内容                          | 72 |
| 5.               | プロジェクト概念図                       | 74 |
| 6.               | 修正討議議事録                         | 75 |
| 7.               | A T I 組織の機能図                    | 77 |
| 8.               | ボホールF T C 関連資料                  | 79 |
| 9.               | 関連機関関係資料                        | 87 |
| 10.              | A T I 全地方研修センター(42箇所に対する研修実態調査) | 91 |

## 第1章 計画打合せ調査団の派遣

### 1-1 調査団派遣の経緯と目的

フィリピンの農業は1990年の就業人口の45%、93年のGDPの22%を占める重要な産業部門であり、外貨獲得源としての役割も大きい。農民の生活レベルは低いままである。総人口の3分の2は農村部に居住しており、直接・間接に農業にかかわっている。また、そのうち農村女性は農業労働力の4分の1を占め、家庭内の労働のみならず、あらゆる農業生産活動に従事している。かかる状況から、近年、普及の分野においてジェンダー（社会的性差）の観点が取り入れられ、研修や普及におけるジェンダー配慮、また、農村女性の開発組織の育成などがますます重要な要素として認識されるにいたっている。上記社会状況を背景にフィリピン政府は当該分野で生活改良普及員制度等を通じて経験、知識及び豊富な人材を有する我が国に対し、「農村女性のための地域特産物の生産及び加工に関する技術協力」を要請してきた。

これを受けて国際協力事業団は1995年1月に事前調査団を派遣し、要請背景及び内容の確認ならびに日本側協力計画を取りまとめた。同年8月には事前調査の補完調査及びプロジェクトフレームワーク案を検討・策定するために長期調査員を派遣した。同調査においては、協力分野における現状及び問題点を洗い出し、関係者間で共通認識を得るため中央、地域の各レベルでワークショップを開催し、現地ニーズを把握した。これら事前、長期の調査結果を受け、フィリピン側当初要請内容を整理したうえで、1996年4月、実施協議調査団を派遣し、上記プロジェクト方針を基にフィリピン側関係者との協議・検討を経てプロジェクト基本計画を策定、同計画を含むプロジェクト実施上の諸事項に関する討議議事録(Record of Discussions: R/D)を取りまとめ署名・交換した。あわせて暫定実施計画(Tentative Schedule of Implementation: TSI)ならびに双方の覚え書きのミニッツも同調査団において署名・交換した。

このR/Dに従って、1996年6月15日から「フィリピン農村生活改善研修強化計画」プロジェクトがフィリピン農業省農業研修局(ATI-DA)を実施機関として、5年間の予定で開始された。その目的は、「農村生活改善(RL1)に関連したモデル研修プログラムが策定され、効果的かつ効率的な研修を継続して行いうる実施体制が整う」ことである。

当初はプロジェクト実施環境整備のため、調査員のみを派遣していたが、同年8月からは順次長期専門家が派遣され、現在はマニラ本部にリーダー及び調査員、ボホール農民訓練センター(BOHOL-FTC)各分野の専門家が配置されて、相互に緊密な連絡を取りつつ、その任にあたっている。

今般は、協力開始後1年あまりが経過したため、以下の目的で計画打合せ調査団の派遣となった。

- (1) プロジェクト目標の再確認
- (2) プロジェクト進捗状況(活動状況、投入、実施・運営体制)の確認
- (3) 詳細暫定実施計画の策定にかかる協議への参加及び内容確認
- (4) より円滑なプロジェクト実施を確保するための必要事項の確認及び提言

加えて、本調査団の派遣により日比双方のプロジェクト関係者間でプロジェクトに関し共通認識を醸成することも目的の一つであった。

#### 1-2 調査団の構成

| 担 当       | 氏 名     | 所 属                     |
|-----------|---------|-------------------------|
| 団長／総括     | 大 島 綏 子 | (社)農村生活総合研究センター理事長      |
| 農村生活改善／普及 | 亀 谷 充   | 農林水産省農産園芸局婦人・生活課普及及び指導官 |
| 研修開発      | 中 嶋 隆 子 | 農林水産省生活技術研修館研修指導官       |
| 地域社会開発    | 田 中 由美子 | 国際協力事業団国際協力専門員          |
| 技術協力      | 上 原 克 則 | 国際協力事業団農業開発協力部農業技術協力課   |



### 1-3 調査日程

調査期間は1997年(平成9年)9月8日から9月20日までの計13日間。その間、モデルセンター(ボホール農民訓練センター)所在地ボホール州に5日間滞在、同州政府及びタグピララン市長を表敬するとともに、各パイロット村落(バラングイ)を訪問、関係者と意見交換、また聞き取り調査を行った。

| 日順   | 月日   | 曜日 | 移動及び業務   |
|------|------|----|--|
| 第1日  | 9/8  | 月  | 往路：東京→マニラ(JL741 09:50発→13:10着)<br>16:30：JICA事務所打合せ   |
| 第2日  | 9/9  | 火  | 10:00：国家経済開発庁(NEDA)表敬<br>10:30：農業省農業研修局(ATI)表敬<br>14:00：農業省次官補表敬<br>13:30：プロジェクト専門家からのブリーフィング      |
| 第3日  | 9/10 | 水  | 移動：マニラ→タグピララン(PR167 04:50発→06:50着)<br>13:40：州副知事表敬<br>14:40：タグピララン市長表敬<br>15:00：カウンターパートからのブリーフィング |
| 第4日  | 9/11 | 木  | 終日：パイロット村落(バラングイ)訪問(デュエロ、ロボック、両コミニシパリティ)   |
| 第5日  | 9/12 | 金  | 午前：パイロット村落(バラングイ)訪問(クラリン、コレリア、両コミニシパリティ)<br>夕刻：プロジェクト専門家との打合せ                                      |
| 第6日  | 9/13 | 土  | 10:00：日本人専門家との打合せ<br>午後：資料収集及び団内打合せ  |
| 第7日  | 9/14 | 日  | 午後：ボホール総合農業振興計画訪問<br>移動：タグピララン→マニラ(PR168 07:50発→09:45着)  |
| 第8日  | 9/15 | 月  | 終日：ATI本部との協議：TSI(1)、(2)関連  |
| 第9日  | 9/16 | 火  | 終日：ATI本部との協議：TSI(3)、(4)関連  |
| 第10日 | 9/17 | 水  | 終日：ATI本部との協議   |
| 第11日 | 9/18 | 木  | 午後：ミニッツ署名・交換<br>「地域社会開発」団員帰国<br>移動マニラ→東京<br>(JL142 14:30発19:40着)                                   |
| 第12日 | 9/19 | 金  | 10:00：NEDA帰国報告<br>14:00：日本大使館報告<br>15:00：JICA事務所報告<br>17:00：団長主催カクテルパーティー                          |
| 第13日 | 9/20 | 土  | 帰路 マニラ→東京(NW006 09:30発→14:30着)   |

#### 1-4 主要面談者

[フィリピン側]

(1) 国家経済開発庁

Mr. FEICISIMO Z. DAVID, Jr

(2) 農業省

Mr. RODOLFO C. UNLAN (農業省次官補)

(3) 農業省農業研修局

|                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| Dr. HORACIO M. CARANDANG | Director IV (局長)          |
| Mr. ARBELTO B. MANINDING | Director III (局次長)        |
| Mr. SIMON V CRUZ         | (管理部長)                    |
| Ms. ROBERTO T MASBANG    | Chief ECD (普及情報部長)        |
| Ms. LUZVIMINDA RAZON     | Chief PMED (計画・評価部長)      |
| Ms. ELRINDA ALIMAN       | Chief PMED 計画・評価部長)       |
| Mr. PAULINO W. RESMA     | Chief SSD (専門技術部長)        |
| Dr. PATRICIA C. JIMEWEZ  | SSD, Project Coordinator  |
| Ms. EDANA SAYSON         | PMED                      |
| Ms. ATHENA B BAGUISI     | ECD                       |
| Ms. FE N. AGUDA ECD      | ECD                       |
| Ms. MERCEDITA D. RAMONES | Secretary                 |
| Ms. THELMA BAUTISTA      | ECD                       |
| Ms. BENILDA ISMAEL       | PMED                      |
| Ms. MARISA GALGO         | PMED                      |
| Ms. GRACE B. FEMENTIRA   | FTC, Bohol (ボホール農民研修センター) |
| Ms. EDARLINA PERDIDO     | SSD                       |
| Ms. ARLENE A SIAPNO      | ASD                       |

(4) ボホール州・タグビララン市

Mr. JOSE V. TORRALBA (副知事補、タグビララン市長)

(5) パイロットコミュニティ・村落 (バランガイ)

1) Duero

|                              |                                     |
|------------------------------|-------------------------------------|
| Hon. Felix Casingcasing      | Municipal Mayor                     |
| Mr. Aquilino "Dodong" Castro | Municipal Agriculture Officer (MAO) |
| Mr. Ronnie Caseñas           | Agricultural Technician (AT)        |

- 2) San Isidro, Duero (パイロット村落)  
 Ms. Basilisa Acebes AT/Home Management Technician  
 Marcelo Escobido Barangay Captain
- 3) Loboc  
 Mr. Celedonio Lunayog Municipal Agricultural Officer (MAO)
- 4) Bagumbayan, Loboc (パイロット村落)  
 Hon. Publeo Sumampong (Municipal Councilor)  
 Delfin Sumampong Barangay Captain
- 5) Clarin  
 Ms. Donatela Cardino Agricultural Technician(AT)  
 Mrs. Melecia Piezas Municipal Secretary
- 6) Corella  
 Hon. Jose Nicanor D. Tocmo Municipal Mayor  
 Mrs. Eelixia T. Mumar AT/Home Management technician
- 7) Canapnapan, Corella "Control Barangay"  
 Mrs. Adolfa T. Apale RIC President of Canapnapan
- 8) Canangca'an, Corella (パイロット村落)  
 Vito Rapal Barangay Captain  
 RIC Members

[日本側]

(1) 日本大使館

奥田 透 (一等書記官)

(2) JICAフィリピン事務所

後藤 洋 (所長)

須藤 和雄 (次長)

飯田 鉄二 (担当所員)

## 第2章 要 約

### 2-1 プロジェクト目標

R/D付属文書添付のプロジェクト基本計画について、日比双方内容を再確認した。

### 2-2 活動達成状況

#### (1) モデルセンター(ボホール農民訓練センター)における活動

パイロット活動を実施するモデル村落の選定を行い、同村落において各種村落基礎調査(地域社会概況調査、個別世帯調査、個別実態調査)を実施した(個別実態調査は継続実施中)。今後、調査結果に基づき、農村生活改善パイロット活動内容を決定し、農村生活改善研修コース及びプログラムの策定につなげる予定。

#### (2) A T I (農業研修局)本部における活動

将来的な連携・協力の可能性を探るべく、関連機関の調査を実施中。(関連省庁、NGO等33カ所については既に実施済み)また、あわせてA T Iの研修実態調査も実施中である。今後、プロジェクトで実施する研修の主対象となることが想定される農業普及員の普及サービスの地方自治体移管後の状況を把握すべく、農業普及・研修にかかわる実態調査を実施予定。

### 2-3 投入状況

日比双方ともR/Dに従い、必要な措置を講じている。フィリピン側に関して言えば、専門家執務室の整備、光熱水費等必要経費の支出にかかる必要な措置を講じており、このことは他のプロジェクトに比して評価に値すると考えられる。特に、ボホールにおける3名のカウンターパート(C/P)のプロジェクト専任化、本部スタッフ3名の定期的なボホールへの派遣等、各々のC/Pが通常業務を抱えていること及び必ずしも余裕のある人員体制でないことを考えると、評価に値すると考えられる。

### 2-4 詳細暫定実施計画

詳細暫定実施計画を策定するにあたり、R/D基本計画で言及されている活動項目についても内容について確認の作業を行った結果、プロジェクト活動実態に則すべく、一部表現修正を行うことに同意した。ただし、修正後の活動内容が基本計画を逸脱するものでないことをあわせて確認した。なお、今回修正及び詳細化された暫定実施計画については、該当部分についてR/Dの修正を要するところ、その効力の発生についてはR/Dの修正に関し署名の後であることを日比

双方了承している。

## 2-5 調査及び協議結果要約

### 2-5-1 プロジェクト全般への調査団コメント

- ・ 日比双方の努力によりプロジェクト実施体制は整ったと判断される。
- ・ 進捗に若干の遅れはあるものの、今後遅れを取り戻し、プロジェクト活動が円滑に実施されることが期待される。
- ・ モデルセンターにおける村落基礎調査を通じ、地方自治体、住民組織等の良好な関係が構築されており、今後実施予定の農村生活パイロット活動の円滑な実施が期待される。
- ・ A T I 本部における関係機関等にかかる各種調査結果についても、取りまとめの後、今後実施予定の農村生活改善にかかる研修プログラム策定の際に活用されることが期待される。

### 2-5-2 プロジェクト運営・実施

#### (1) C/Pの配置

調査団から今後プロジェクト活動が量的に増大し、また、多様化することにかんがみ、C/Pの適切な配置及び必要となる秘書等の補助要員の配置を求めたところ、フィリピン側から努力する旨回答を得た。

#### (2) 投入

調査団からプロジェクトの持続発展性及び活動後半に予定されている活動成果の他地域への拡大がフィリピン側主導により実施されることを考慮して、投入に関し、日比双方とも適切に行うよう提案し、フィリピン側も確認した。また、同時にプロジェクトの円滑な実施を保障すべく日比双方とも時宜を得た投入を行うことを提案し、フィリピン側から重要性は認識している旨回答を得た。

加えて、ボホール「新」農民訓練センター建設計画の新捗状況について質問したところ、フィリピン側から予算のリリースが遅延しているため、着工していないが、リリースされ次第すぐ着工する予定であるとの回答を得た。

#### (3) A T I 研修強化プロジェクト 12 か年計画

日比双方は、本プロジェクトが A T I 研修強化プロジェクト 12 か年計画の一部をなすものであることを確認した。なお、A T I 12 か年計画の詳細の説明を調査団が求めたところ、

現在準備中であり、1998年開催予定の合同調整委員会において提出するとの回答を得た。

(4) プロジェクト活動成果の適用

適用するサイトの選択については双方十分な議論のもと実施することを確認した。また、選択基準の策定については、協力期間3年目に行うことを双方確認した。

(5) 手続きの迅速化

円滑なプロジェクト活動の実施を確保すべく、日比双方要請書の発出等の手続きを適切に行う必要があることを確認した。

## 第3章 プロジェクト実施体制

### 3-1 プロジェクトの管理

A T I本部においては、局長室及び4つの部から本プロジェクト担当職員が指名されている。その内訳は、専門技術部(S S D)から4名、計画・評価部(P M E D)から3名、普及情報部(E C D)から2名、管理部(A S D)から3名である。実施機関組織図を図3-1に示す。本プロジェクトのモデルセンターであるボボール農民訓練センター(F T C)からは5名が本プロジェクト担当職員として指名されており、その内訳は、F T C所長と、計画・評価ユニット(P M E U)及び専門技術ユニット(S S U)から計4名である。

本プロジェクトの効果的な実施のために、合同調整委員会(Joint Coordinating Committee)が設立されており、本プロジェクトの全体的な進捗状況のレビュー及び年次計画・財政計画の策定が主に行われている。本会合は最低年1回開催され、必要に応じてさらに開催される。この委員会は日本側及びフィリピン側の本プロジェクト指名担当職員、農業省、国家経済開発庁(N E D A)、J I C Aフィリピン事務所代表等の関係者から構成される。本プロジェクトのモニタリングの目的で、進捗状況の報告が四半期ごとにN E D Aに提出される。

### 3-2 本プロジェクトの実施計画

本プロジェクトの主要活動は1996年4月に日本側とフィリピン側との間で署名された暫定実施計画(T S I)に記載されている。この実施計画は毎年の合同調整委員会において、あるいは日本からの計画打合せ調査団との議論に基づいて改訂される。(本計画打合せ調査団の派遣により、暫定実施計画が修正された。修正点については付属資料3.を参照されたい。)

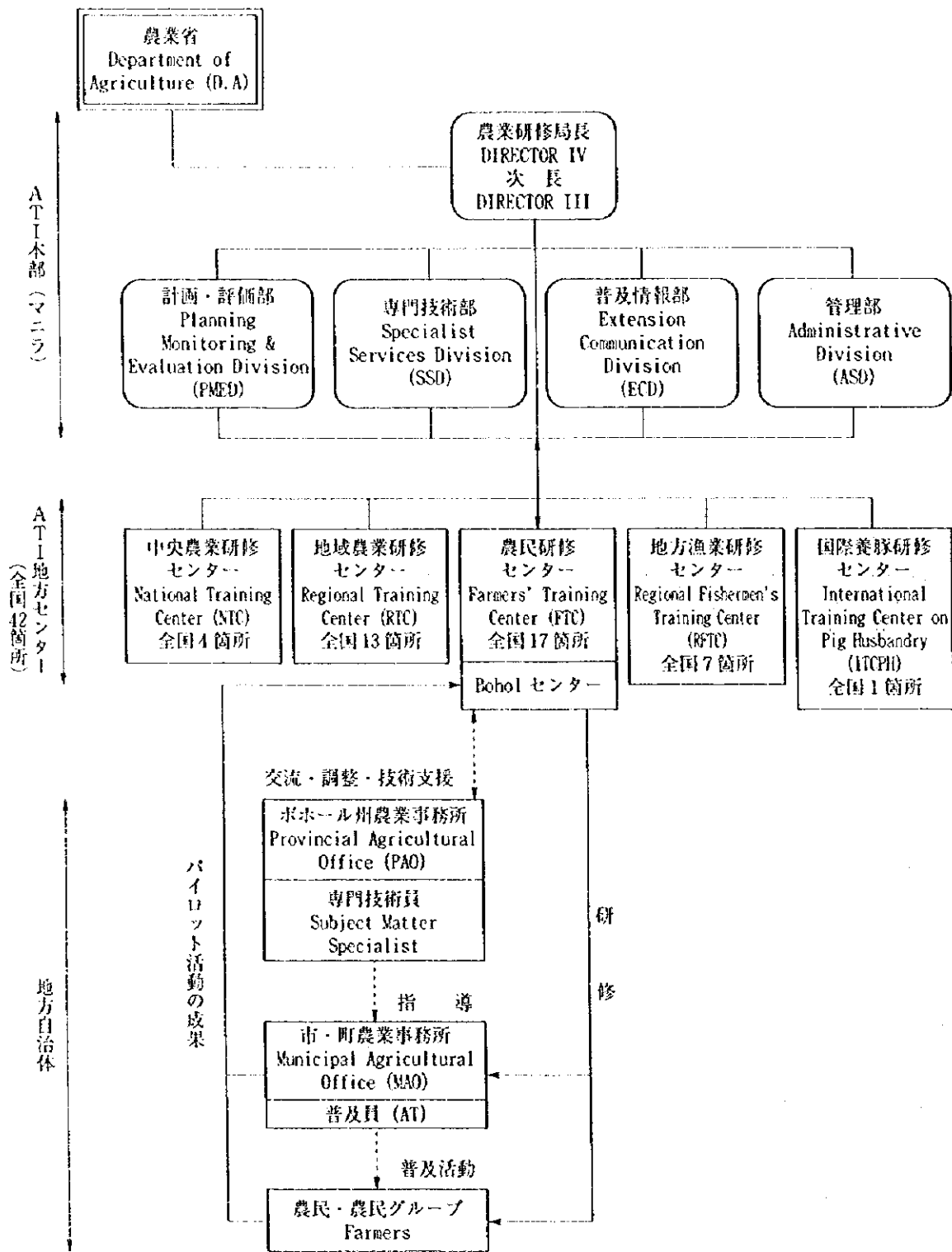


図 3 - 1 実施機関組織図



## 第4章 プロジェクト活動進捗状況

農村生活改善研修強化計画実施計画のフローチャートを図4-1に示す(P.14)

### 4-1 投入状況

#### 4-1-1 日本側投入

##### (1) 長期専門家

計6名の長期専門家がプロジェクトに派遣されている。2名は本部、4名はボホール農民訓練センターに配置されている。派遣分野は以下のとおり。

- ・チームリーダー／組織強化(本部)
- ・調整員(本部)
- ・農村生活改善・普及(ボホール)
- ・人的資源開発(ボホール)
- ・研修開発(ボホール)
- ・地域社会開発(ボホール)

##### (2) 短期専門家

1997年10月現在、4名が派遣されている。協力指導分野は以下のとおり。

- ・地域社会開発(1996.9.7～1996.10.17)
- ・家庭資源管理(1997.3.21～1997.4.12)
- ・AV教材作成(1997.9.24～1997.11.23)
- ・地域社会計画(1997.10.30～1997.11.11)

##### (3) カウンターパート研修

1997年10月現在、5名の本邦研修を受入れている。研修科目は農村開発計画(2名)、農村生活改善(1名)、農村生活改善研修強化計画(2名)である。平成9年度は、残り2名を予定している。2名は、ボホール農民訓練センターのカウンターパートの予定。

##### (4) 機材供与

車両及び他の機材を供与している。主要な機材は、以下のとおり。管理状況は良好である。

- ・車両(4台)
- ・コンピューター(5台)
- ・プリンター(6台)
- ・コピー機(2台)

(5) 一般現地業務費

主な支出事項としては、個別世帯調査を委託した現地NGO備上費及びマニラ〜タグビラン間の旅費である。なお、同間の移動は延べ39回を数えている。また、他にFAX、OA用机及び書棚等の必要資材を購入している。

(6) その他ローカルコスト負担事業

1997年度、村落基礎調査等を実施するうえでの経費を「啓蒙普及活動費」より日本側で一部負担している。また、年度中、研修を実施予定であるが、その費用についても「中堅技術者養成対策費」により負担予定。

4-1-2 フィリピン側投入

(1) カウンターパート

当初、農業研修局本部においては、15名のカウンターパートを配置した。うち3名は、管理部門である。また、各サイト各々1名の運転手が配置されている。

なお、本部は、ボホール農民訓練センターに対し、1名の運転手と秘書の備上を認めている。

(2) 施設、機材等の供与

本部及びボホール農民訓練センターにおいて、日本人専門執務室及び付帯設備等(エアコンディショナー含む)を提供している。

なお、ボホールにおける供与車両のための仮説ガレージ建設費に3万ペソが充てられている。

(3) 予算

フィリピンの1996年度、80万7,000ペソが本プロジェクト予算として計上され、うち68万4,000ペソが支出された。1997年度は通常予算に加え28万ペソ増額した。

なお、1996年予算中、ボホール支出分は43万3,410ペソ。

(4) その他

運転手傭上費、旅費、通信費、ガソリン等資機材及び会議費の大部分を負担した。

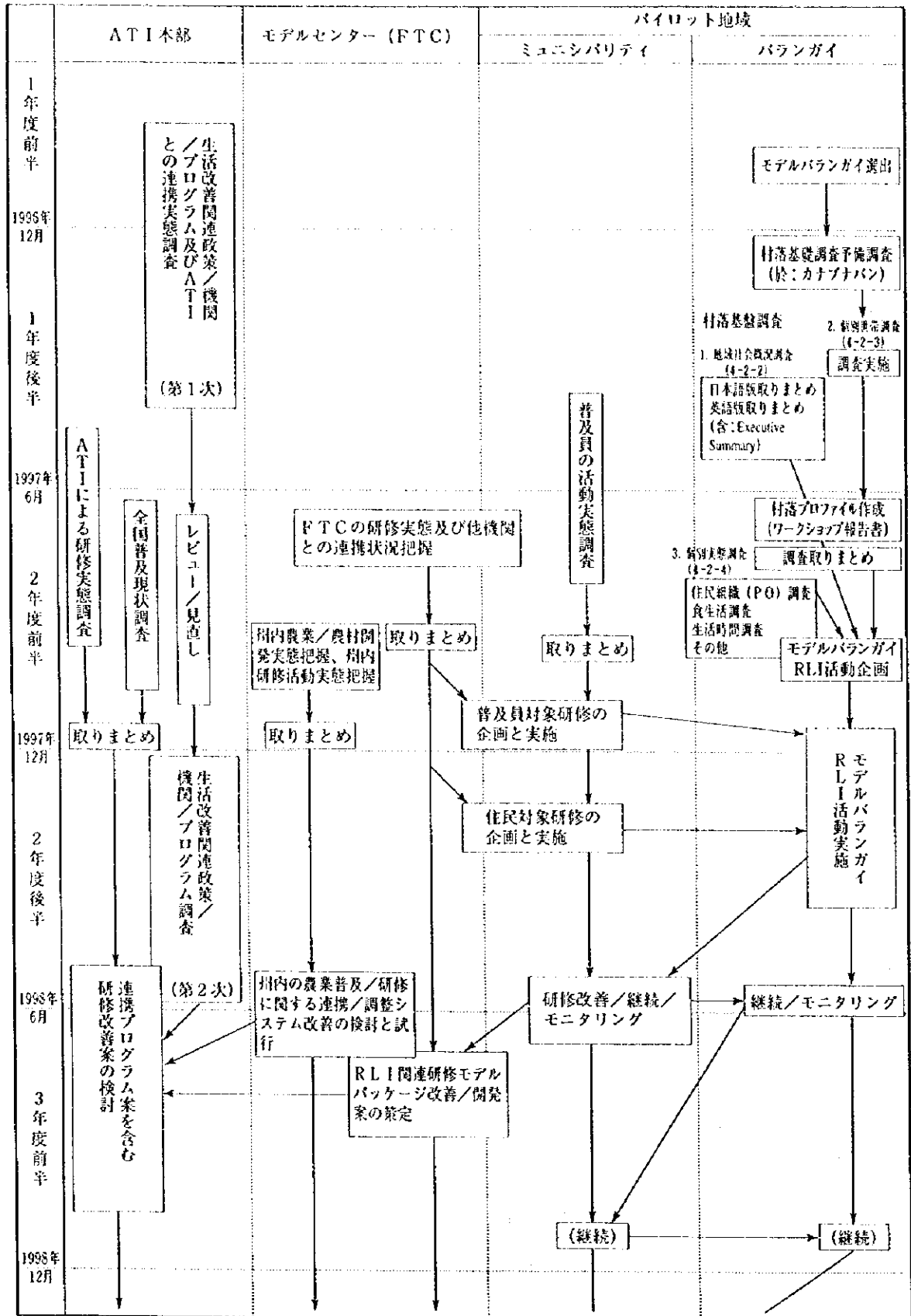


図4-1 農村生活改善研修強化計画実施計画フローチャート

#### 4-2 村落基礎調査

##### ・各種ベースライン調査の実施

ボホールプロジェクトサイトにおけるベースライン調査として、これまでに「地域社会概況調査 (Community Survey)」「個別世帯調査 (Household Survey)」「個別実態調査 (Individual Sample Survey)」の3種類の調査が実施されてきた。表4-1で、これらの調査の大まかな経緯と進捗状況を概観する。<sup>1</sup>

ベースライン調査の主な目的は、「最も効果的で必要と思われる農村生活改善のための活動を計画・開発するために、選定されたパイロットにおける住民の実際の生活状況を理解すること」で、それぞれの調査の概要は以下のとおりである。<sup>2</sup>

表4-1 ベースライン調査概要

|       | 地域社会概況調査<br>(Community Survey)                                     | 個別世帯調査<br>(Household Survey)                     | 個別実態調査<br>(Individual Sample Survey)                   |
|-------|--|--|--|
| 目的    | パイロット地域の住民の社会経済状況、行政システム、社会環境などを理解する                               | 選定されたバラングイの住民・世帯と、住民の全体的な生活状況についての基本的な情報を入手する    | 選定されたバラングイにおいて、個別世帯調査では十分に把握できない、実際の生活状況について詳細な情報を入手する |
| 内容    | 社会経済状況(健康、社会福祉、農業生産、天然資源、既存の開発計画など)                                | 家族の情報、生活状況、世帯の経済状況                               | 詳細な生計及び生活状況(食糧、住居、家政、労働条件等を含む)                         |
| 実施の手法 | 選定されたミュニシパリティ及びバラングイにおける役人へのインタビュー。ミュニシパル事務所やバラングイ委員会などからの文書や情報の収集 | 質問票を使用し、選定されたバラングイの全ての世帯に対するインタビュー               | 一般的なガイドライン・チェックリストに沿って、選定された世帯に対するインタビューとフィールド観察       |
| 実施担当者 | ATI C/PのスタッフとJICA専門家   | ATI C/PのスタッフとJICA専門家の監督のもとに、外部委託された団体(RAFI)が実施する | ATI C/PのスタッフとJICA専門家                                   |

<sup>1</sup> この部分は、片倉専門家からのインプット及び協力を得て作成された。

<sup>2</sup> プロジェクト専門家作成資料(英文)より翻訳し転載した。

#### 4-2-1 ベースライン調査の前段階

##### (1) パイロット地域の選定

プロジェクトのパイロット地域として4つのムニシパリティ、5つの村(バランガイ)が選定された。異なる特徴をもつムニシパリティを選定するための基準は、以下のとおりである。<sup>3</sup>

- 1) 活発な協同組合や農村改善クラブ(RIC)が存在する
- 2) Home Management Technician(HMT)が存続している、Farm Management Technician(FMT), Rural Youth Development Officers(RYDOs), Agricultural Technicians(ATs)が活動的である
- 3) 地理的条件が異なるムニシパリティより選ぶ
- 4) 土地利用状況の異なるムニシパリティより選ぶ
- 5) 主要産業/主要作物の異なるムニシパリティより選ぶ
- 6) 道路へのアクセスが良い
- 7) 政府及びNGOの介入がない

その結果、東部ではDuero、内陸部ではLoboc、北部ではClarín、西部ではCorellaが選定された。さらにバランガイの選定については各ムニシパリティの町長(Mayor)始め、ムニシパリティの関係者と検討し、基本的にはムニシパリティ側主導で選定を実施した。

選定されるバランガイについて、プロジェクト側意向として、1)当プロジェクトの活動に参加/協力する意向があり、2)活動的な住民組織/協同組合等があるバランガイであることが望ましい旨伝えている。

選定されたムニシパリティとバランガイの主な特徴については表4-2のとおりである。

表4-2 選定されたムニシパリティとバランガイ

|        | 地域  | ムニシパリティ       | バランガイ       | 主な特徴                        |
|--------|-----|---------------|-------------|-----------------------------|
| パイロット  | 東部  | デュエロ: Duero   | San Isidoro | 稲作地域、町にMAOのデモファームがあり、活動が積極的 |
|        | 内陸部 | ロボック: Loboc   | Bagumbayan  | 果樹栽培、木工品、多目的共同組合がある         |
|        | 北部  | クラリン: Clarín  | Tangaran    | 漁業中心                        |
|        | 西部  | コレリア: Corella | Canagca'an  | 根菜類(ウビ)、果樹                  |
| コントロール | 西部  | コレリア: Corella | Canapnapan  | 根菜類の生産                      |

<sup>3</sup> 農村生活総合研究センター編「平成8年度農業関係プロジェクト国内支援事業(農村生活改善分野)報告書」平成9年3月、(富田短期専門家の報告を参照)

## (2) ワークショップの開催

調査を開始するにあたり、パイロット地域(4つのミュニシパリティ)の関係者(農業事務所:MAO、農業技術者:AT、企画開発コーディネーター:MPDC)を集めて、プロジェクトの説明と地域間の情報交換を目的としたワークショップを開催した(1996年11月18日)。まずATI側からプロジェクトの内容の説明を行い、その後、①町ごとに分かれてグループを作り、町の状況、パイロット村落(バランガイ)、ミュニシパリティが行っている開発事業などをそれぞれの地図に記入し、他の参加者たちに紹介し、さらに、②MAOなどの役職ごとに分かれてグループを作り、このプロジェクトにおける自分たちの役割について話し合い、結果を発表した。

## (3) バランガイにおける説明会

各パイロット村落において、住民に対し、1日のプロジェクト説明会を開催した(1996年10月、及び1997年7月)。バランガイ総会や臨時総会を聞いてもらい、バランガイの選定理由やプロジェクトの目的を説明し、今後の協力を求めた。

### 4-2-2 地域社会概況調査(Community Survey)

個別世帯調査と並行しながら、また、個別実態調査に先立って、4つのパイロット地域の概況及びパイロット村落の状況を把握するために、地域社会概況調査を実施し(1997年4月1~8日)、地域ごとのプロファイルを作成した。各町の役場、企画開発コーディネーター(MPDC)、農業事務所(MAO)、保険診療所(MHO)、社会福祉開発事務所などを訪問し、予算や活動について聞き取り調査と資料収集を行った。また、バランガイキャプテンからも予算や組織活動について聞き取り調査と資料収集を行った。

この調査では調査グループを二つに分けた。それぞれのグループは、日本人専門家ATIマニラ本部のC/P、FTCボホールのC/P、FTCボホールのC/Pから構成され、4つの町のうち二つずつを分担した。既に英文と和文の報告書がまとめられているが、資料の収集量、質、さらに聞き取り内容については、ミュニシパリティ間、バランガイ間のばらつきが大きい。今後の活動を通じ、適宜情報を追加修正していく必要がある。この調査でわかった各ミュニシパリティのおおまかな特徴は表4-3のとおりである。<sup>4</sup>

<sup>4</sup> プロジェクト専門家作成資料より転載。

表4-3 各コミニシティの特徴

|                 | デュエロ                      | ロボック   | クラリン   | コレリア                    |
|-----------------|---------------------------|--|--|-------------------------|
| 地理的特徴           | 海岸地域                      | 内陸部  | 北部   | 西部、その他                  |
| 面積 (ha)         | 9,859                     | 5,327  | 6,713  | 3,631                   |
| 人口(年)           | 14,299(1995)              | 13,915(1996)   | 16,802(1996)   | 5,417(1996)             |
| バランガイ数          | 21                        | 28   | 24   | 8                       |
| 等級              | Class 5                   | Class 5  | Class 5  | Class 6                 |
| タグピランからの距離 (km) | 73                        | 24   | 61   | 10                      |
| 町の子算            | 889万ペソ<br>(1996)          | 1,029万9,399.48ペソ<br>(1997)   | 1,100万4,952.52ペソ<br>(1997)   | 91万4,297.00ペソ<br>(1995) |
| 主な生産物           | 稲作                        | 果樹栽培   | 漁業   | 根菜類                     |
| 農・漁業情報          | 耕作地(1995):<br>4,392.22 ha | 耕作地(1995):<br>2,679.93 ha<br>米:灌漑 25 ha<br>非灌漑 325 ha<br>トウモロコシ:<br>1,545 ha<br>根菜: 162 ha<br>平均耕地面積:<br>1.25 ha | 耕作地(1995):<br>4,691.71 ha<br>米:灌漑 234 ha<br>非灌漑 220 ha<br>トウモロコシ:<br>188 ha<br>根菜: 217 ha<br>平均耕地面積:<br>0.5 ha | (データなし)                 |
| 町で市のたつ日         | 木曜日と日曜日                   | 土曜日  | 水曜日  | 月曜日                     |

#### 4-2-3 個別世帯調査 (Household Survey)

##### (1) 個別世帯調査の目的

この調査の主な目的は、①パイロット村落(バランガイ)の生活実態を把握することと、②プロジェクト実施前のパイロット村落の全世帯の社会経済状況を記録することである。

##### (2) 個別世帯調査票の作成

###### 1) 調査項目選定に関するブレンストーミング

調査項目選定に関するブレンストーミングをATI-FTCのカウンターパート(C/P)とJICA専門家、及びATI本部(ATI-CO)からボホールに派遣されたC/Pとの間で行った。



## 2) 調査票のドラフトの作成

C/Pの1人と専門家の1人が組んで、調査票のたたき台を作成した。専門家が指摘したのは、集計のことまで考え、あらかじめ答えをコード化する努力をすることであった。そのたたき台をもとにATI-FTCのC/PとJICA専門家及びATI-COからボホールに派遣されたC/Pが詳細を検討し、調査票のドラフトを作成した。

## 3) プリテストの実施

この調査票のドラフトを使って、ATI-FTCのC/PとATI-COからボホールに派遣されたC/P、JICA専門家が、コントロール・バランガイであるカナパナパンの14世帯でプリテストを行った(1996年11月末)。14の調査対象世帯は、コレリアのMAOが推薦した調査対象者候補のリスト(職業別プラス低所得世帯)の中から選んだ。

プリテスト実施後に、調査票を再検討し、調査項目の統合と削減を行った。調査票の分量は1世帯当たり45分で終わるくらいに削減した。答えるのに時間がかかる質問や、答えが多種類になりすぎてコード化が難しい質問は、たとえ生活実態把握にとって重要と思われるものでも削除した。削除した項目は生活実態サンプリング調査に回すことにした。

プリテストの結果の集計には、データベースソフト(Windows95 Access)を使うことにし、専門家が指導して、プリテストのデータをC/Pが入力したが、これには非常に時間を要した。

## 4) ATI本部とのワークショップの開催

調査票の作成の作業は、ボホールサイトで主導してきたが、ATI-COのC/Pの意見も反映させて、調査票を確定するためにATI-COとのワークショップ(TSEP-RLI Consultative Workshop)をボホールで行った(1997年2月4日)。この時、あわせて個別実態調査の検討も行った。参加者はJICA専門家6名、ATI-CO7名、ATI-FTC-Bohol 14名パイロット地域関係者6名(MAO-3名、MPDC-2名、AT-1名)であった。

## 5) 世帯調査票の実際の確定

地域社会概況調査や個別実態調査で行う調査項目と、この個別世帯調査の調査項目との関係を再確認したうえ、かつ日本(国内支援委員会など)からの意見も考慮し、最終的に世帯調査票を確定した(1997年3月)。

### (3) 調査の実施

#### 1) 調査実施委託機関の選定

個別世帯調査の実施を外部機関に委託した。外部委託した理由のひとつは、このような詳細な調査が可能なのは、JICAが直接かかわるボホールのみで、ATIが主導することになっている他のサイトでは不可能だと思われたからである。もちろん、ATI独自にはこのような調査を行う人員もノウハウもないという判断もあった。

個別世帯調査依頼先の候補者探しは、ATI-FTCとボホールのJICA専門家とで行った。候補者はビサヤ地域の大学やNGOなど、以下のとおりである。それぞれの箇所を訪れ、依頼内容を説明した。

- ①Divine Word College
- ②PROCESS
- ③Cebu Resource Managers Organization, Incorporated (CRMOI)
- ④Ramon Aboitiz Foundation Inc. (RAFI), Eduardo Aboitiz Development Studies Center
- ⑤San Carlos University
- ⑥Silman University
- ⑦ミンダナオ文化研究所 (Research Institute for Mindanao Culture, Xavier University)
- ⑧IC Net

応札してきた5つの機関の中から、ATI-FTCとJICA専門家とで協議し、調査費用見積り、調査機関、調査方法、過去の調査実績、調査能力などを考慮したうえで、最終的にRAFIを選定し、契約をかわした。

#### 2) 個別世帯調査実施(1997年3月～4月)

実際の調査手順は、RAFIのドラフトの最初の部分を参照のこと。

#### 3) 調査結果の単純集計

入力されたデータの第1次集計は、コンピューターの操作に手慣れた入力者を雇い、専門家が指導して行った(調査項目別バラガイ別単純集計表)。現金収入のデータについては、項目ごとにばらばらに聞いていた結果をまとめて、世帯ごとの現金収入総額を仮算定できるようにした。さらに、集計の過程で気づいたデータの大きなばらつきや突出した数字については、調査原票をチェックし、入力ミスを修正したり、換算率をより適正な値に変更したりして、データの信頼度を高めるように努めた。

#### 4) 分析ワークショップの開催

個別世帯調査の結果をなるべく多くのプロジェクト関係者で共有するために、分析ワークショップを開催した(1997年6月9～10日)。参加者は、ATI-CO及びATI-FTCのC/PとJICA専門家であった。また、ワークショップのファシリテーター役とレポートの取りまとめは、RAFIが行った。単純集計した結果のほか、新たにクロス集計をかけてデータを検討し、最後に、データ分析から明らかになったバランガイごとの特徴を皆でまとめた。

#### 5) 報告書の作成

前述のワークショップの結果も盛り込んだ個別世帯調査の取りまとめは、RAFIが行った。RAFIの提案で、バランガイごとにまとめる形で報告書が作成された。

#### 6) 調査結果のフィードバック

ATI-FTCのC/Pが調査結果の中から明らかになった基本的な数値の図表をマニラ紙(模造紙)にまとめ、その表を見せながら、パイロット・ミュニシパリティ、バランガイに対して個別世帯調査の結果に関するフィードバックを行った(1997年7月末)。参加者は、基本的には地域社会概要調査の聞き取りを行った町の関係者と、バランガイ役職者(バランガイキャプテンと議員)を予定したが、住民が集まったバランガイもあった。

### 4-2-4 個別実態調査(Individual Sampling Survey)

#### (1) 個別実態調査の目的

個別実態調査の目的は、当初は世帯調査では収集が困難なデータを取得するためという位置付けだったが、個別世帯調査と地域社会概況調査が先行したため、それらの調査結果も踏まえ、ある程度実際に村落(バランガイ)で行う活動をも見越して、調査内容を絞り込んで行うこととなった。主な調査目的は、①パイロット地域の生活実態について、より深い理解を得ることと、②調査を通して、今後バランガイで行う生活改善活動案を考えることであった。

#### (2) 個別実態調査の企画

個別世帯調査と地域社会概況調査の結果に基づき、バランガイ別に生活改善活動の課題設定をある程度想定し、そのうえで調査対象と調査項目を絞り込んだ。まず各バランガイ

の特徴や問題点に関し、JICA専門家とC/Pがブレインストーミングを行い、個別実態調査につなげるという作業を行った。

具体的には、各バランガイごとに、表4-4に示すカテゴリーについて、個別実態調査と地域社会概況調査の結果から明らかになった点(Findings)を拾い上げ、推定課題(Assumption)とさらなる調査項目(Issues to be further surveyed)を検討した。

表4-4 個別実態調査項目

|   |
|---|
| 1. Health   |
| 1-1 Food & Nutrition  |
| 1-2 Sanitation & Water Supply                                   |
| 2. Economic Status/Activities                                   |
| 2-1 Farming Activities  |
| 2-2 Off-Farm Activities   |
| 2-3 Home Management   |
| 2-3-1 Clothing  |
| 2-3-2 Housing   |
| 2-3-3 Financial Management                                      |
| 2-3-4 Division of Labor & Household Chores/Work Time Allocation |
| 2-3-5 Decision-Making   |
| 3. Environment  |
| 3-1 Indigenous Resources  |
| 3-2 Road and Infrastructure                                     |
| 3-3 Electricity/Power   |
| 4. Education/Literacy   |
| 5. Social Participation   |
| 5-1 Organizations   |
| 5-2 Public Administration                                       |

### (3) 個別実態調査の実施

#### 1) 調査世帯の選択

個別実態調査は、ATIのC/PとJICA専門家とで行った。サンプル数は調査人員と時間を考慮して、1バランガイあたり、4~5世帯とした。各バランガイごとに職業分類を設定し、MAOやバランガイキャプテンなどパイロット地域の関係者から、複数の調査候補世帯を推薦してもらった。推薦してもらったリストの中から、最も適切と思われる世帯を、世帯調査のデータなども活用して選定し、調査を行った。

## 2) 調査の実施

調査を実施する前に、どの項目に重点をおいて調査するのかを1世帯ごとに事前に検討した。世帯主とその配偶者というように、できるだけ複数の世帯構成員から聞き取りを行った(1997年8月～10月)

## (4) PO調査

地域社会概況調査で把握しきれなかったPeople's Organization(PO)調査を各パイロット村落(バラングイ)で実施した(1997年8月)。POの代表者に集まってもらい、専門家が作成した質問票に従って、C/Pが聞き取りを実施した。この調査は、今後バラングイで生活改善の活動実施する組織を選定、あるいは育成する際の参考にすることも考慮されている。

## 4-2-5 今後の展開

本プロジェクトにおいては、以上の調査結果を踏まえながら、各バラングイにおける生活改善活動の課題を決定し、具体的な活動へつなげていくことが今後の大きな課題である。

### (1) ベースライン調査

地域社会概況調査及び個別世帯調査により、地域及び住民の生活に関する基礎的な情報が入手されたと考えてよいが、個別世帯調査の内容が、時間的制約もあり、従来の家計調査の域を大きく出たものではなく、また、Participatory Rural Appraisal(PRA)のような住民参加型の調査ではなかったことから、個別実態調査に期待される役割は大きい。しかし、これ以上の大規模な調査は必要なく、今後はパイロット活動を実施しながら必要に応じて追加的に部分的な調査を行っていくことになると思われる。

### (2) バラングイにおける住民男女の参加によるプランニング・ワークショップの開催

今後は、これまでの調査結果を住民男女に投げかけながら、どのような生活改善にかかわる活動が望ましいのか、幅広く住民の意向を反映していくことが重要である。専門家あるいはカウンターパートが一定の期間、バラングイ近辺に住み込んで住民の生活状況を理解しながら、ワークショップや会合を重ねていくことが望ましいのか、あるいは地域のリーダーになるような人々を選定して、その人々が中心的に責任を持って、住民男女参加型で討議を進めていくのか、地域にとって最も適当と思われる手法を考察する必要がある。地域のリーダーを選定していく基準や、リーダーに望まれる資質や、考え方なども、検討する必要がある。また、プランニングに多大な時をかけすぎても、住民の関心がそれてし

まうことから、多少の試行錯誤は覚悟の上、適当な時点で活動を開始すべきであろう。

### (3) 活動のためのガイドライン

住民の意向を考慮しながら、バランガイで実施する具体的な活動を決定するにあたり、プロジェクト側からどのような具体的なインプットが投入できるのかを検討する必要がある。どこまでが住民負担で、どこからがプロジェクト負担になるのかを見極める必要がある。全体的な、簡単な活動運営ガイドラインを作成していくことができれば望ましいかもしれない。

### (4) ベースライン調査のフォローアップ

ベースライン調査というのは、ある一定の期間を経た後に、開発の効果を測定するために再度行われる調査の基礎となるものであるが、これまでと同様のスケールで再度調査を行うことは、フィリピンのC/Pにとって負担であるので、いつの時点で、どのように簡素化された調査を行うのかを将来、適当な時点で検討していく必要がある。

## 4-3 パイロット活動の実施

### 4-3-1 パイロット村落(バランガイ)における農村生活改善活動の計画・実施の日程

パイロット村落における農村生活改善活動は、調査団来訪時には未着手であり、今後、各種村落基礎調査の結果を踏まえつつ、バランガイの住民・普及員・ミュニシパリティ政府の担当者等の参加により策定され、プロジェクト実施2年度日後半(1998年初め)から実施される予定である。

今後の予定としては、

- (1) 各バランガイにおいて、1997年10月上旬終了を目途に個別世帯調査(Individual Sampling Survey)を行う。
- (2) この結果を受けて、10月中旬にATI担当者(ボホールFTC職員を含む)及びJICA専門家間でパイロット活動計画の策定方針について集中的な打合せを行う
- (3) 各バランガイにおいて、現地住民、ミュニシパリティ担当者の参加のもとで、当該バランガイの活動計画策定のためのワークショップを開催する。
- (4) (3)の結果を踏まえ策定された計画を1998年初めから実施する。

活動計画には、①バランガイの現状、問題点<個別生活実態調査(ISS)によるデータの裏付けを含む>、②パイロット活動の目標、③パイロット活動のテーマ、④必要な投入、⑤研修活動(誰が何をするか)等の要素が記載されることになる。

#### 4-3-2 プロジェクトサイトにおける農村生活改善活動

##### (1) 中央政府との関係について

1952年に農業・天然資源省に農業普及局(Bureau of Agricultural Extension)が設置され、普及活動体制が整備されて以来、農業普及(その1分野として生活改善を含む)が活発に行われてきていたが、1991年に地方政治法(自治体法)が制定されて以来、農業普及活動の主体は地方政府に移管され、その活動を国レベルで把握するのが困難になった。各地方政府における活動は本プロジェクトにおいても調査されているところ(後述)であるが、フィリピンの普及事業に関する中央政府と地方政府の関係について調査団が訪問した時点の情報は以下のとおりである。

- 1) 中央政府からの地方政府への交付金はある。交付金の20%は地方開発に充てられ、それに福祉等も含まれる。この中から普及活動への支援にも使われる。交付金は州、ムニシパル、バラングイレベルにそれぞれ交付されているが、州に偏って配分されている。地方交付金として一括されているので農業関係だけではなく、道路、建物、インフラ関係の整備にも使われる。また、重点施策に必ずしも直結していないようである。
- 2) 地方分権は、分権後に小さなムニシパリティでは低賃金になるなど、普及員には不評であるとのことである。ただし、首長サイドから見ると、地方分権以後、首長が普及員をコントロールできるようになった側面もある。なお、地方分権以後、州からムニシパル1等に配分される農業予算には大きな変化はないとのことである。地方分権後においては普及員の任命権は首長にある(MAOではない)。

##### (2) 生活改善クラブ(RIC)の活動

- 1) 生活改善クラブ(Rural Improvement Club: RIC)については、1956年にRICに関する法令が起草されるとともにフィリピンRIC会議の第1回全国会議が開催されるなど活発な活動が開始され、1958年のThird National RIC Convention(第3回全国RIC大会)において正式に発足した。それ以来、生活関係普及員と密接に連携をとりながら、栄養改善、家族計画・青少年育成、農家経営(ごみの再利用、環境衛生面を含む)、「アグリビジネス」(農産物加工・観賞用植物の栽培等を含む)等の活動を行ってきた(地方分権前のRIC及び生活関係普及員の活動については、Amadea E. Medina著“The RIC Home Extension Story”に詳しく記載されている)。地方分権においてもATIの専門技術部(SSD)がRIC等の婦人組織の育成支援をずっと行っているが、特に地方分権後は、あまり地方政府と連携を取った一貫性のあるものとはなっていない。現在でもRI

C、大学、普及員、ATIを取りまとめる組織があり、その委員会にはATIも出席しているとのことだが、どの程度その組織が普及活動に役立っているかは不明。

2) 今回の調査団が訪問したCorellaのCanangca'anバラングイにおいてRICグループ員に聞き取りを行った。このRICは1968年に設立されたもので、30歳から81歳まで20名ぐらいが参加している。この地域では日常的に必要な食糧はほとんど自足できるが魚と砂糖は市場で買うとのことであった。グループ員に今後どのような活動をしていきたいか尋ねたところ、家畜の生産、農業生産品目の拡大等の希望が多く、日本でいう「農村生活の改善」に直接関係の深い内容は短い時間の範囲では出てこなかった。しかし、今回のプロジェクトで、住民参加で村落における活動を決定していく過程で自らの生活を見直して、それを改善していくことは必要となろう。

3) 地域によってはRICの農民組織／協同組合への合併、吸収が見られる。例えば今回の調査団が訪問したミュニシパリティのうちLobocでは、農民組織／協同組合を中心に生活改善の活動がなされている。RIC等の住民組織も農民組織／協同組合の傘下におかれており、協同組合を中心に生活改善の活動がなされている。協同組合は信用事業やサリサリストアの運営等にかかわっている。

### (3) 普及員の活動

1) 今回調査団が訪問した各ミュニシパリティで活動している普及員数は3名から5名でそのうち1名は生活関係の普及員であった。生活関係の普及員は農業生産関係の普及活動も行っており、専門ごとに完全に活動が分かれているわけではない。例えばDueroで生活関係普及員に活動内容を尋ねたところ、「稲の栽培の研修や収入創出の研修等を行っている」とのことであった。その普及員はまもなく退職する予定となっているが、退職したらRICの専属として活動するとのことであり、RICと普及員とのつながりは依然として深いようである。

また、普及員の活動としては月に1度定期的にバラングイレベルで会合を開き、3時間から4時間かけて講義・実習を行うとのことであった。課題は栄養問題、RICの活動、豚の飼育、食料生産、バナナチップ、キャッサバ等を用いた加工活動のデモンストラーション等であった。

2) Corellaの生活担当普及員によると、ボホール農民訓練センター(FTC)で行われる研修に年3~4回参加しているとのことであった(稲・トウモロコシ・切り花の生産)。ま



た、普及員として能力を向上させるためには何が必要かたずねたところ、車がなく、夫のオートバイに乗せてもらうか徒歩で移動せざるを得ない状況のため、交通手段の改善が最も重要であるとのことであった。

- 3) Dueroでは、5年前ほど前から農業事務所を中心として、ユニークな普及活動を展開している。すなわち、MAOと普及員を合わせて4名しかいないことから、村人を農業事務所に集めて研修を行うとともに、各バランガイごとにボランティアでAgricultural Workerを設置して、そのボランティアを通じて農民に技術の移転を図っている。彼らは以前は農民リーダーだったが現在はそれ以外も含む。手当として農民に毎月100ペソ出される。また、普及活動の実施・モニタリングを行う。これは他のバランガイにはあまり見られないユニークな活動である。実証圃で稲(2種類)、トマト、ナス、豆類等の実証試験が行われており、また、野菜の種、果樹の苗(1996年実績苗木の合計3万本台)の配布を種子は無料、苗木が1本5ペソで行っている。これらの活動が本プロジェクトの実施によりどのような発展を見せるか興味を持たれる。

#### 4-3-3 生活改善活動の計画・実施に関する留意点

- (1) 各バランガイにおける生活改善活動計画は、各バランガイの状況を踏まえて策定されるため、パイロット活動におけるインプットはバランガイによって異なる。例えば、農産物の加工活動に対する支援を全てのバランガイにおいて実施するとは限らないし、加工活動の内容もバランガイによって異なる。Dueroでは、前述のとおりMAO主導でユニークな普及体制が敷かれているので、それを当面サポートすることになる。Lobocでは、協同組合を中心に生活改善の活動がなされていることから、協同組合の支援も考えられる。
- (2) 各バランガイにおける計画策定ワークショップの進め方についてはFTCスタッフともよく議論する必要がある。相手に聞いても出てこないことがあり(考えていない)、そのようなときにはうまく引き出す必要がある。こちらから何をオファーできるか分からないと意見が出てこない可能性がある。
- (3) ATIは本来生活改善活動を仕掛けられないが、普及員及び農民に接することのできる唯一の機関である。現状では中央における農政課題(作物生産の向上)に関連した研修を実施するのが優先されており、普及員・農民のニーズに適合した研修を行うのが困難な状況にある。

この問題に対応するため、本プロジェクトの短期専門家として、ボホールに10月下旬か

ら11月上旬にかけて派遣されている千葉大学の木下勇助教授の支援も受ける予定になっている。本プロジェクト目的の一つである、「住民自らが参加して地域の実状を互いに認識して村づくりをしていく手法を確立し、研修プロジェクトとして確立する」を達成するためには、実際に住民参加型の村落開発を実施して、それを記録しながら最適な方法を見いだしていく作業が必要になる。木下助教授は、現地専門家とともに集落の生活に接してその方法論を現地カウンターパートと検討する予定になっている。ATIにとっては研修コースの住民参加の作成手法は目新しいものであり、この手法を十分に修得し、生活の視点を入れながら他に適用していくことが必要である。

また、9月下旬から高階専門家が派遣されており、ボホールにおける村落生活改善活動の活動記録を残すためのビデオ撮影技術の移転を行うとともに、生活改善活動前の状況を収録することになっている。収録された村落の状況は今後の研修計画作成において、貴重な資料になると思われる。

#### 4-4 ボホール農民訓練センターにおける研修活動

##### 4-4-1 ボホール農民訓練センターの研修実態

ボホール(FTC)研修実態調査及び関連機関実態調査は、派遣専門家により、ボホールFTC報告書類を基にカウンターパートから聞き取りを行うことにより実施されている。

計画打合せ調査団派遣時における、ボホールFTCの研修実態は次のとおりである。

##### (1) ボホールFTCの対象地域

ボホールFTCはボホール州全域を対象としており、シキホール島も含む。

##### (2) ボホールFTCの職員

ボホールFTCは16名の職員からなる。職員の名前とポスト名は付属資料8.(1)のとおりである。

また、専門分野別の担当職員は付属資料8.(2)のとおりである。

##### (3) 研修内容

ボホールFTCの1996年研修実績は付属資料8.(3)のとおりである。全部で44本実施された研修を分野別に大別すると、Gintong Ani Program(農業省全体の作物増産計画)の一環として行われるもの27本(稲21本、トウモロコシ6本)、KLDP(主要畜産開発事業)関係5本、KCCDP(主要商品作物生産開発事業)関係2本、その他(食品加工、起業活

動、協同組合に関する基礎教育を含む)10本であった。このうち、生活改善に関係すると思われるものには次の研修がある。

- ・穀類のポストハーベスト技術とジェンダー(3日間、州全体を対象、参加者農民14名：うち男性11名女性3名)
- ・起業技術開発(3日間、州全体を対象、参加者4Hクラブ員20名：うち男性8名、女性12名)
- ・起業活動基礎コース(3日間、州全体を対象、参加者協同組合リーダー28名(うち男性16名女性12名))
- ・切り花生産コース(3日間、Albur地区を対象、参加者R I C及び4Hクラブから27名：うち男性2名、女性25名)
- ・食品加工技術研修(3日間、州全体を対象、参加者R I C及びMother's Association 17名：全員女性)
- ・農村組織の自立に関する研修(2日間、Albur地区を対象、参加者R I C及び農民リーダー24名：男性20名女性4名)

個々の研修は1日から5日までのものが大部分であり、長期のものは例外的に農業生産技術に実地訓練が必要なもの1本(120日)、水牛の人工授精と妊娠中の診断(27日)のみである。

参加者の種類別で見ると、普及員(AT)向けが約3分の1(14本)であり、その他の研修としては、農民、協同組合のリーダー、4Hクラブ員、生活改善グループ(R I C)員、地方政府の職員等多岐にわたっていた。

スポンサー、形態別に見ると、Gintong Ani Program関係の研修は大部分が農業省から下ろされた政策的なコースであり(予算は農業省持ち、一部はA T I 予算)、これが23本と全体(44本)の過半数を占めている。その他には、下記のものがある。

- ・ボホールF T Cが独自に提供可能な研修としてオファーしているもの(付属資料8.(4))の中から、F T Cの年次計画に組まれてA T I から予算を取り実施したもの(9本)
- ・住民組織のリクエストにより実施したもの(6本)
- ・農業省以外の政府機関(農地改革省等)が実施する研修を支援したもの(6本)

なお、上述の他政府機関実施の研修支援(6本)の他に、9本の研修では、他の関係団体からコストの一部負担や講師派遣という形での支援を受けている。

#### (4) 調査団がJ I C A 専門家からの聞き取りにより得た情報

- ・他機関とはうまくギブ・アンド・テイクを行っており、連携は比較的うまくいっている

るようである。

- ・ボホールF T Cでの優先事項は生産拡大といった国家プログラムに関する研究を行うことであるが、現在のところ、技術パッケージが中央から下りてきた際に地域に適合したものにはできていないようである。今後は地域農家のニーズに対応した研修をどのように組んでいくかが課題であろう。
- ・研修運営におけるF T Cスタッフの業務量は相当あり、中央から下りてくる作物生産関係の研修が優先されている。

マンパワーに限りがある中で、F T Cが生活改善関係の研修をどのように組み入れて行くかが問題となろう。

#### 4-4-2 ボホール州内他機関研修活動実態

ボホール州内のA T I以外の機関による農業・農村開発実態及び州内研修活動実態については、地方行政部局のワークショップに参加して聞き取ることにより情報収集する予定である。この結果も1997年中に取りまとめ、将来的にはボホール州内の農業普及／研修に関する連携／調整システム改善の検討・試行につなげていく考えである。

#### 4-4-3 今後の展開

##### (1) 研修全般について

現在、生活関係の研修については食品加工及び農産物の栽培指導等、部門別の研修が中心となっている。今後は現地での活動を踏まえ、現場のニーズにあわせつつ農村生活の課題を総合的にとらえた研修が必要となってくるのではないかと。

農村生活を総合的にとらえるには、地域住民の健康、食生活、住居、農業・生活環境、農業労働、農家経営、生活・営農目標等を十分に把握し、これを整理することが必要である。

また、今後そのような研修をボホールF T Cにおいて導入していく際には、ボホールF T Cのマンパワーの面、農業者全体の(中央の)施策との関連を含め、研修制度の実施体制、実施内容、運営方法を全体的に見直し、効率化を図っていくことが必要である。

##### (2) 研修内容について

###### 1) 普及員等の指導者に対する研修

現地において普及員等の指導者が対象地域・問題を把握し、改善計画を樹立し、実際の普及活動を行い、評価していく能力をさらに向上させていくために、今後次のような研修が必要となるのではないかと。

- ・普及指導活動の基本的な一連の流れに関する研修
- ・実態把握と評価等のための調査手法の研修
- ・農村生活の考え方、把握方法、改善手法の研修
- ・農村生活改善を住民主体で推進し、意識高揚につなげるための普及手法の研修
- ・住民のリーダー育成の方法
- ・関係機関との連携推進のため、地域の把握に関する共通認識の醸成、連携活動に関する研修

2) 農家に対しては、住民の主体的な参加を促進し、自らの生活への問題意識、問題解決ができるように支援していく観点から、次のような研修が必要となるのではないか。

- ・住民間の交流のあり方に関する研修
- ・問題解決及び次への課題化に関する研修

なお、課題や対象のニーズにより、女性、高齢者、リーダー等対象別の観衆の必要性も出てくる。

3) 生活改善グループ(RIC)、生産組織等への研修としては、それぞれの活動目標の達成のための技術等の研修の実施とともに、当プロジェクトの推進役として活動できるように誘導する観点から、リーダーとしての基本的な知識、組織活動のあり方、住民主体での課題解決の手法、連携活動の手法等を含む研修を構成することが必要ではないか。

#### 4-5 関係機関との連携強化

##### 4-5-1 関連機関実態調査

(1) 本プロジェクトにおいては、1996年後半から1997年前半にかけて、フィリピン国内において生活改善関連事業、農業普及、研修等を実施している機関とATIとの将来的な連携・協力の可能性を探るべく、関連していると考えられる31機関付属資料9.(1)の調査を実施した(調査項目については同(2)を参照)。その調査結果は次のとおりである。

調査を行った31機関のうち、16機関がATIと連携した活動を行っていた。連携していた機関は付属資料9.(3)のとおりである。連携の形態は研修費用、研修施設及び人員のシェアリングであった。研修機関の職員は研修において、resource personや研修の進行役を請け負っていた。また、ATIとの連携関係のない機関においても農村生活改善関係の活動を行っていた機関がある。ほとんどすべての機関が農村生活改善活動の実施にあたり問題点を持っており、その中には共通するものもあった。今回の調査で指摘された問題

点は次のとおりである。

1) 資金面・施設面の問題

- ・活動資金が不十分、支払いの遅れ、研修機器・施設の不足

2) 職員の問題

- ・農村生活改善事業の計画・実施にかかわる人員の不足
- ・resource personの不足(地域による)

3) 地理的な問題

- ・交通機関の不足・欠如
- ・農村生活改善事業のアクセスが不可能な地域がある

4) 活動対象者の問題

- ・伝統的な価値観や行動様式
- ・対象者の健康・栄養に関する関心の欠如
- ・農村における「政府から分け前をもらう」というメンタリティー
- ・障害者の社会経済開発への機会の不足

5) 政府の姿勢の問題(理解の不足)

- ・人的資源開発よりもインフラ整備事業を指向する
- ・研修機関の地方政府への移管により農村生活改善活動の優先度が低下した
- ・L G Uによる農村生活改善活動に対するロジスティック支援の低下・欠如
- ・官僚的文化

6) 連携の問題

- ・機関による事業の重複
- ・受益者と実施者の参加・協力関係の不足

7) その他

- ・社会経済的及び文化的原因による技術革新の利用の遅延
- ・受益者の活動支援に対する銀行の高利子等

(2) 本調査においては上記問題点の解決方法として、下記の事項が提言されている。

1) 関係機関のA T Iとの連携の意志の確認

2) 関係機関との連携にあたり、双方に利益があり、かつ双方の視点を踏まえた合意文書(Memorandum of Agreement, M O A)を取り決めること。例えば、ある特定の普及活動を行う際に農業省とL G Uの間で合意文書を取り交わす等。

3) 農村生活改善に関する研修・普及活動を行う機関の連携を強化するために、共同プログラムを形成する。すなわち、研修の共同管理、コストの共同負担、情報交換、職員

の交換研修等を行うことにより、関係機関の間の活動の重複を避ける。

(3) 今後、これらの調査結果を踏まえ、農村における普及・研修活動が、A T I と関連機関との連携により、より効率的・有機的に行われることが期待される。パイロット村落(バランガイ)における本プロジェクトの活動において、関連機関との連携を図ることは、プロジェクトの効率的な実施に役立つのみならず、今後のA T I と関連機関との効率的な連携に関する良いモデルケースとなる。

なお、ボホールにおいて村落基礎調査の「世帯調査」の委託先を選定する過程で、本プロジェクトのスタッフと村落開発や地域社会開発に経験とノウハウを持つ研究機関やN G O との接触がなされた。これらの地元機関の活動には、村落住民への働きかけや住民組織化、リーダー育成、プロジェクト管理等で優れた点が多くあると考えられ、今後これらの機関とパイロット活動実施においても連携する可能性があると思われる。

#### 4-5-2 農業普及実態調査

計画打合せ調査団派遣時には、各パイロット・ミュニシパリティで「MAO、普及員の活動実態調査」が、また、全国レベルで「国内農業普及／研修にかかわる実態調査」がそれぞれ行われていた。これらの調査の概要は次のとおりである。

##### (1) パイロット・ミュニシパリティにおけるMAO、普及員の活動実態調査

目的：農村生活改善研修強化計画プロジェクトの効率的な推進を図るため、F T C 研修の受益者であり、農村生活改善の指導者である普及員の活動を把握し、今後のプロジェクト活動計画に反映する。

##### 1) 対象者：Corella, Loboc, Duero, Clarinの全MAO、普及員

Corella： MAO 1名、普及員4名(うち1名は女性で生活関係)

Loboc： MAO 1名、普及員4名(うち1名は女性で生活関係)

Duero： MAO 1名、普及員3名(うち1名は女性で生活関係)

Clarín： MAO 1名、普及員5名(うち3名は女性、そのうち1名は生活関係)

##### 2) 調査内容

①普及員としての活動歴(地方分権前後での経験年数)

②ミュニシパリティにおける普及事業の状況

- ・普及事業の位置付け(地方分権前後の活動状況)
- ・活動予算
- ・現在の活動体制

普及員の活動地域／専門分野の分担

普及員の活動方法は機能分担制か、地域分担か

どのような活動体制が望ましいと思うか

現場活動の中で今までに困った・困っていること

③過去1年間／数年間に実施した活動の詳細

- －現場での指導(個別農家、グループ等)
- －事務所での作業(教材の作成等指導の準備作業、関係機関との連携：会合があればその議題、事務所の中での会議等)
- －参加した研修(中央／地方政府が実施したもの、自主参加のもの)
- －その他の活動

調査団派遣時には、回答を回収中の段階であり、結果はまだ取りまとめられていなかったが、1名から回答が来ており、それを見ることができた。その回答表には次の事項が指摘されていた。

- ・現在の普及制度の問題点としては、地方政府が普及制度に重点を置いていないこと、現地指導する際の移動手段、農家の「待ち」の姿勢、技術革新の遅れ等。
- ・活動対象は各個別農家、生活改善実行グループ、4日クラブ等多岐にわたり、セミナー、ミーティング、圃場における実証等の活動を行っているようであった。
- ・事務所においては、データの収集、研修教材の準備等が行われていた。
- ・普及員自身においても厚生省、農業省(A T Iを含む)主催の研修を受講しており、活発な活動を行っているようであった。

1枚だけの回答のみで結果を判断することはできないが、本調査結果が今後のプロジェクトの活動計画に適切に反映され、また、本プロジェクトの進捗により市域住民が農業生産・農村生活の改善のためにさらに積極的に参加することを期待したい。

(2) 国内農業普及／研修にかかわる実態調査

本件調査の目的は、全国規模でA T Iの実施する研修の主要な受益者でありかつ地域の農村生活改善の指導者でもある農業普及員(1991年に地方移管)を取り巻く農業普及の現場レベルでの実態／課題について可能な限り把握し、その内容を今後のプロジェクト活動計画に反映することである。

本調査ではルソン、ピサヤ、ミンダナオの各地方より複数のミュニシパリティを選択し、調査を実施する。対象者にはMAO、普及員、地方公共団体、農家(受益者)が含まれる。



調査表に含まれる項目としては下記のものがある。

- 1) 地方分権前及び後の普及員の活動の実態
- 2) 直面した問題(経済的、社会的、政治的、技術的)
- 3) 普及員の学歴
- 4) 他のプログラム(農民、主婦、若者)に従事しているマンパワー
- 5) 農業関係の事業及び財政計画の存在
- 6) 普及職員の専門性/専門項目
- 7) 使用する普及手法
- 8) 普及職員の守備範囲
- 9) 受講した研修の種類

これら(1)及び(2)で述べた調査は1997年中に一通り取りまとめる予定になっている。本報告内容は、今後普及員のニーズにあった研修プログラムを策定する際の参考となる。

#### 4-5-3 農業研修局各研修センターの実態調査

##### (1) ATI全体の研修計画(1997年)

ATI本部レベルでは、農業省の「中期農業開発計画(ATADFまたはGintong Ani Programと呼ばれる)」の支援のため、1997年には、全国の42のATI傘下研修センターにおいて、農業省の地域事務所、地方政府(LGU)、NGO、他の民間機関との連携により、フィリピン全体で表4-5のとおり研修を行うことを目標としている。

表4-5 ATIの研修計画

| 研修課題                 | 研修員数(農民・リーダー) | 研修員数(普及員) |
|----------------------|---------------|-----------|
| ・米とトウモロコシの生産拡大に関する研修 | 1,110名        | 520名      |
| ・商業的作物の生産拡大に関する研修    | 1,695名        | 690名      |
| ・畜産の生産拡大に関する研修       | 1,050名        | 35名       |
| ・漁業の生産拡大に関する研修       | 3,090名        | 210名      |
| ・組織支援に関する研修          | 4,325名        | 210名      |
| ・食品加工その他に関する研修       | 720名          | 315名      |
| その他                  |               |           |
| 大学への派遣               |               | (74名)     |
| 地方研修期間への派遣           |               | (776名)    |
| 外国への短期研修派遣           |               | (30名)     |

## (2) A T I 各研修センターの実態調査

前述のとおりボホールF T Cにおいては詳細な研修実態の把握がなされている。一方、A T I 全地方研修センター (42箇所) に対しては、センターの実態調査を実施中である。調査項目は付属資料 10 のとおりである。

現在調査票の回収を行っているところであるが、8月12日付のDavao地域研修センターの回答には以下の興味深いコメントが含まれている。

### 1) 研修の実施に対する地方分権の影響

- ・ 地方政府によってはあまり協力的でないので (特に旅費) 研修員をリクルートするのが困難になった。
- ・ 普及員へのアクセスが制限されるようになった。

### 2) 地方分権に対処するために取った行動

- ・ 旅費の節約のために、研修員は研修前に連れてきて研修の活動が全て終了してから連れ返す (研修期間中はドミトリーに宿泊するという意味か?)
- ・ 州レベルの農業担当者から受講生のリクルートに対して口コミで支援を得ている。
- ・ 州レベルの州研修諮問委員会 (P T A C) に農業部門のS B (理事会) 議長を入れることにより、L G U の財政担当者からの支援を引き出す。

### 3) 現在及び将来の農業研修の実施に対する主な懸念/関心

- ・ 実証圃のグレードアップ。研究室、実演プロジェクトの充実。実習して学ぶことは今でも最良の研修方法。
- ・ 農業研修の実施を改善するため研修センターの施設 (宿泊施設、講義室) を改善するための定期的かつ十分な資金の供給が必要。このような提案はわれわれが研修を開始してから既に何度も行っている。

上記の調査結果は 1997 年中 (本プロジェクト実施 2 年度前半中) に取りまとめられ、その結果は、プロジェクトにおける研修プログラム開発に反映される予定となっている。

## 第5章 プロジェクト運営の留意点

### 5-1 農業研修局12か年研修強化計画

本プロジェクトの自立発展を考えた場合、フィリピン側でプログラム成果を活用するための全体構想・計画を有することが求められる。農業研修局(ATI)においては、長期調査時の合同レポートを基に、12か年計画を作成、R/Dにおいても、その位置付けが言及されている。しかしながら、予算的な裏付けを伴った詳細な計画は策定されていない。今次調査団の質問に対しては「詳細内容について、現在取りまとめ中であり、1998年2月の合同調整委員会において提示する」との説明がなされた。しかしながら、同計画が実効性をもつには、計画自体が少なくとも農業省レベルでオーソライズされる必要がある。同計画の位置付けについて、確認する必要がある。

### 5-2 ボホールにおける農村生活改善パイロット活動の展開

現在、村落基礎調査結果に基づき、5つのパイロット村落において町村職員、農業普及員及び地域住民の参加を得て、各村落における農村生活改善のためのパイロット活動内容に関し検討を行っている。今後は、その結果を受け、ボホール農民訓練センター(FTC)主導のもと、各村落のニーズを反映した同活動を実施予定であるが、同活動の目的は、結果として、ボホールFTCにおける農村生活改善研修プログラム開発に向けての試行であり、TSI上も、3年目で直接的な協力活動を終了することになっているが、その後の同活動の継続的实施について検討を要する。

### 5-3 プロジェクト実施体制

本プロジェクトにおいては、研修実施における農業省関連部局を含む他の政府関連機関との連携強化を成果の一つとしてあげている。現在、合同調整委員会の構成は、農業研修局長を議長に、同局関連3部長及びモデルセンター所長、加えて農業省からは、国際農業開発協力室(International Agricultural Development Cooperation Office)及び“Research Project Development Division”の代表が参加している(ボホール州知事も構成メンバーに含まれる)。上記成果達成のためには、局を越えた調整、さらには省間レベルでの調整も想定される。今後、実際に連携を検討、実施するうえで、合同調整委員会構成を再検討(例えば、議長を農業省次官レベルにするといった変更、また、他関連機関の参加)する必要が考えられる。

なお、現在(1997年9月時点)フィリピンにおいて行政改革の動きがあり、農業省、農地改革省及び環境天然資源省の統合が取りざたされている。今後動向を注視する必要がある。

### 5-4 フィリピンにおける他の関連プロジェクトとの連携

ボホール州においては、本プロジェクト以外に、「総合農業振興計画」が実施されており、また、

フィリピンでは農業セクターにおいて、「土壌研究開発センター計画フェーズII」、農業モニタリング体制改善計画」等が実施中である。研修実施に際して、これらプロジェクトとの連携(例えば、①専門家、C/Pの講師派遣、②プロジェクト研究成果、施設の研修への提供)を図ることにより、研修効率・効果の一層の向上が期待できるし、また、連携プロジェクトにおいてもC/Pの意識の向上等が期待できる。各プロジェクト間の連携を密にするため、JICAフィリピン事務所及び本部において、各プロジェクトの連携への意識付け及び調整が求められる。

#### 5-5 「新」ボホール農民訓練センターの建設

「新」ボホール農民訓練センター用地については、タグピララン市からの提供が決まっており、建設費についても、本年度フィリピン側予算に計上されている旨、調査団に対し農業研修局から説明があった。ただし、予算の支出が遅れており、着工時期の目途は立っていなかった。ボホールでの活動は、3年を目途に縮小予定であり、現状の工事スケジュールからして、プロジェクトの新センターへの関与はあまり必要でないが、ボホールにおける成果の同州への定着・発展、また、モデルセンターとしてのインパクトを考慮に入れ、機材等の整備については、ある程度の協力することが必要と考えられる。

#### 5-6 プロジェクト目標達成指標

本プロジェクトは、「生活改善」を扱っており、「生産性の向上」を扱うプロジェクトに比し、具体的な目標及び目標達成指標の設定が容易ではない。農業分野に限定せず、幅広く、「生活の質の向上」を扱うプロジェクトに関する知見を収集・蓄積し、必要に応じ、プロジェクトに提供することは、実施の円滑化に資すると判断される。

なお、1998年2月開催予定の合同調整委員会においてPDMを改訂予定。その際、指標及び指標入手手段についても見直し作業が行われる予定である。

#### 5-7 日本側協力対応

本プロジェクトの日本側投入については、弾力的な対応が求められる。すなわち、機材供与については、大規模なものは必要でないが、他方、多様な機関との連携・調整が求められることから、啓蒙普及活動費、草の根展開支援費等のローカルコスト負担事業については、積極的な活用が求められる。

## 付 属 資 料

1. ミニッツ(英文)
2. ミニッツ(和文)
3. 暫定実施計画／詳細暫定実施計画比較
4. 主要協議内容
5. プロジェクト概念図
6. 修正討議議事録
7. A T I 組織の機能図
8. ボホールド T C 関連資料
9. 関連機関関係資料
10. A T I 全地方研修センター(42箇所に対する研修実態調査)



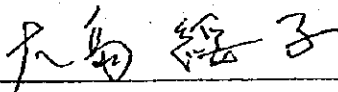
MINUTES OF UNDERSTANDING  
BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION TEAM  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF  
THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE TRAINING SERVICES ENHANCEMENT PROJECT  
FOR RURAL LIFE IMPROVEMENT

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Ms. Masako Oshima visited the Republic of the Philippines from September 8 to 20, 1997 for the purpose of formulating the detailed Tentative Schedule of Implementation for the Training Services Enhancement Project for Rural Life Improvement (hereinafter referred to as "the Project") as well as discussing the major issues related to the implementation of the Project.

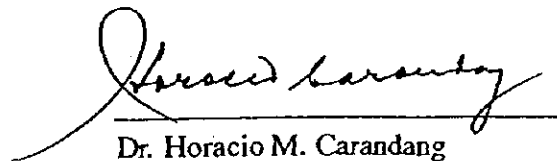
During its stay in the Republic of the Philippines, the Team exchanged views and had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of the Philippines in respect of various issues for sharing common understanding on the Project.

Understanding between the Team and the authorities concerned of the Government of the Philippines is hereby recorded and confirmed as shown in the document attached hereto.

Manila, September 18, 1997



Masako Oshima  
Leader  
Consultation Team  
Japan International Cooperation Agency



Dr. Horacio M. Carandang  
Director IV  
Agricultural Training Institute  
Department of Agriculture  
The Republic of the Philippines

## Attached Document

### 1. Review of the Project Objective

The Philippine side and the Japanese side reviewed and confirmed the Background, Overall Goal and Purpose of the Project according to the Master Plan attached to the Record of Discussions signed in Manila on April 16, 1996.

### 2. Accomplishment of the Project Activities (June 1996 to August 1997)

The Philippine counterpart staff for the Project explained the accomplishment of the Project from June 1996 to August 1997 as follows:

#### 2-1 Model Center Activities

The accomplishment of the Project activities at the Model Center was presented by a Farmers Training Center, Bohol, counterpart staff.

The activities so far carried out in Bohol from the time of the Project commencement mainly concentrated in the selection of the Pilot Area, participatory survey, data collection and consultations with people concerned at the barangay, municipal and provincial levels which would serve as the basis of the identification of Rural Life Improvement (hereinafter referred to as "RLI") activities and development of RLI training courses and program.

The activities are described in Annex 1.

#### 2-2 Central Office Activities

The accomplishment of the activities at the Agricultural Training Institute Central Office (hereinafter referred to as "ATI" and "CO" respectively) was presented by a CO counterpart staff.

The main activities conducted at the CO are, Survey on RLI related policy and training programs of other national agencies, academic institutes, NGOs and LGUs, Survey on ATI Training Centers and Study on Agricultural Extension Services.

The activities are described in Annex 2.

### 3. Input from Both Sides

The input for the Project was reported by the administrative staff of the Philippine side, and by the Japanese Project Coordinator. Their reports are referred to in Annex 3 and 4.

大島





#### 4. Revision of the Tentative Schedule of Implementation

In the course of formulating the detailed Tentative Schedule for Implementation (hereinafter referred to as "TSI"), both sides agreed that the expressions of the major four items of the TSI should be modified from those of the original TSI, as shown in Annex 5. Therefore, the Record of Discussions signed in April 1996 should be amended accordingly, though it is to be noted that the modification is within the framework of the Master Plan of the Record of Discussions. The revised TSI will become effective only after the amended Record of Discussions is signed by the Philippine and Japanese authorities concerned in due course. The comparison between the original TSI and the revised TSI is explained in Annex 6. The explanation of this revision based on the discussion is described in Annex 7.

Both sides confirmed that the detailed activities of the TSI might be further rephrased at mutual consultation of the Philippine and the Japanese authorities concerned when needs arise in the future course of the Project. However, such revision should not deviate from the framework of the Record of Discussions so that it will not require amendment of the Record of Discussions.

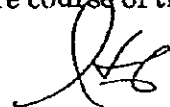
#### 5. Summary of Main Discussions

##### 5-1 Overall situation of the Project

As the result of the consultation study this time, the Team summarized the findings as follows;

- 1) The institutional setup for the Project implementation has been established through the endeavors of both the Philippine and the Japanese sides.
- 2) Although the progress of the Project has slightly been behind the schedule, it is expected that the Project would catch up and that the activities would be implemented smoothly from now on.
- 3) In the Model Center, cooperative relationship with Local Government Units, Non Government Organizations, and People's Organizations has been formed and strengthened through the process of baseline surveys in the pilot barangays and municipalities, from which the support to and a firm basis for implementation of the pilot activities would be derived.
- 4) At the ATI CO, surveys on various relevant themes have also been initiated, outcomes of which are to be integrated and utilized in the process of formulation of the model training program on rural life improvement in the future course of the Project implementation.

大島



## 5-2 Management/ Implementation of the Project

### 5-2-1 Assignment of the Counterpart Personnel

Taking into consideration that the activities will increase in volume and be diversified in the future course of the Project implementation, the Team requested ATI to take necessary measures to ensure appropriate assignment of the counterpart personnel to the Project. The Team also requested to provide necessary support staff to the Project. The Philippine side responded that ATI will continue its effort to meet the requirement of the Project in terms of necessary human resources despite the present limitation for increasing the personnel.

### 5-2-2 Inputs

The Team pointed out that it is necessary to examine carefully the scale of inputs to the Project, especially to the activities at the Model Center, since the activities for the expansion in the latter years shall basically be implemented with the resources of ATI itself. The Philippine side explained that they had also been aware of the scale of input in order to make the future expansion feasible and confirmed that they would continue to examine carefully in this regard in close consultation with Japanese experts.

As to the maintenance and utilization of the equipment provided through the Project, the Team appreciated that ATI had so far well maintained and utilized the equipment, and that it had also allocated necessary budget. The Team requested to continue such effort in the future course of Project implementation.

The Team suggested that efforts should be made by both the Philippine and the Japanese sides to disburse necessary fund for the Project at appropriate times, since the timely disbursement of the fund is inevitable for the smooth implementation of the Project activities. The Philippine side responded that they fully realize the importance of adequate disbursement, though they had faced some difficulties in the current fiscal year.

In relation to the disbursement of the fund, the Team made inquiry on the progress of the plan to construct the new office of the Model Center, which was referred in the Minutes of Understanding on the Record of Discussions signed in April 1996. In reply the Philippine side explained that the actual construction had not started due to delay in the release for the capital outlay for this purpose. However, the necessary measures had already been taken, therefore, the construction would start upon the release of the fund.

### 5-2-3 ATI's Twelve Year Plan on Training Services Enhancement Program

Both sides confirmed that the Project is to be considered as a part of the ATI's Twelve Year Plan on Training Services Enhancement Program, as referred in the Master Plan attached to the Record of Discussions signed in April 1996. The Team made inquiry on the details of the Twelve Year Plan, while the Philippine side replied that the detailed

document is being prepared and that it is to be presented at the occasion of the forthcoming Joint Coordination Committee Meeting to be held in 1998.

#### 5-2-4 Selection of the Site(s) for Initial Expansion

As for the selection of the site(s) for initial expansion, both sides confirmed that the site(s) would be selected through discussion among the concerned authorities, and that the formulation of the selection criteria would be started on the third year of the Project.

#### 5-2-5 Efficient Processing of the Documents related to the Project Inputs

The Team suggested that both the Philippine and the Japanese sides should make efforts to adequately process necessary documents such as the application forms related to the Project inputs, since timely provision of necessary inputs would be important for the smooth implementation of the Project. In reply, the Philippine side assured that appropriate measures would be taken in the future.

大島



Accomplishment of TSEPRLI activities at the Model Center (Farmers Training Center, Bohol)

The accomplishment of Bohol Project activities are as follows;

*Selection of pilot barangays*

Through brainstorming among the ATI-FTC Counterpart and the Japanese experts, the criteria for selecting the pilot municipalities/ barangays were setup.

The selection of pilot areas, which consists of five barangays from various part of Bohol Province was completed already. Some of the criteria set were as follows; as geographical location, land use, industries, manpower of MAO, presence or non-presence of active cooperatives, absence of GO/NGO interventions, major crop and others.

After identifying the four municipalities, the group had a discussion with the municipal officers and decided the five pilot barangays within the four municipalities.

*Implementation of the Baseline Survey*

The objective of the Household Survey was to obtain the general information on overall living conditions of the barangay people. At its initial stage, the questionnaire was formulated and pretested at one of the model barangays before actual implementation of the survey.

The actual Household Survey was conducted at all five selected barangays, by the hired independent group, i.e. Ramon Aboitiz Foundation, Inc. (RAFI), which was selected after the assessment made based on the criteria and qualifications set by both the JICA experts and the Model Center counterpart staff. The interview through questionnaire was completed in May and a Workshop for Data Analysis was conducted in June.

As for the Community Survey, its aim was to understand the brief socio-economic status and the surrounding social environment of the selected pilot barangays. The survey was conducted by ATI-FTC counterpart and ATI-CO counterpart with the participation of Japanese experts through interviews with the municipal officers and barangay people. The survey report was presented in June 1997.

Feedbacking and validation of data for the two surveys mentioned above, were conducted in all the five model barangays in July 1997. Barangay officials and representatives from LGUs were invited.

大島



### *Individual Sampling Survey*

The Individual Sampling Survey which answers the five spheres of issues that cropped up during the analysis of the Household Survey is under implementation. It has already been completed at two model barangays.

### *Survey on People's Organizations / Rural Based Organizations*

Survey on people's organizations and rural based organizations in the pilot barangays had been conducted using the prepared questionnaire.

### *Planning and preparation of the rural life improvement activities*

The content of the rural life activities to be conducted at the selected pilot barangays will be based on the outcomes of the series of surveys mentioned above. At the same time planning of activities should integrate the participation of the barangay people and the municipal officers such as the agricultural technologists.

In this regard, the Project has conducted Orientation and Briefing Workshops with the municipal officers and it has also held orientation meetings with the barangay people.

大島

RB

Accomplishment of TSEPRLI activities at the Central Office

*Monitoring, process documentation and analysis of the activities listed in (1) and (2) above.*

The activities carried out in the Model Center, has been monitored continuously by the three counterparts from different divisions of CO since the early stage of the Project. They have been submitting reports at occasions to compile the record of activities at the Model Center.

*Survey on Rural Life Improvement related policies and training programs at other national agencies, academic institutes, NGOs and LGUs*

The surveys on other government agencies and popular NGOs such as the Rural Improvement Club (RIC) has already been conducted in March 1997. Other surveys on academic institutions and other NGOs and LGUs will be conducted in the latter part of this year.

*Study on agricultural extension services*

This study will be based on actual observations on the present activities of ATIs in the selected municipalities of the country which will represent different characteristic of the Philippine rural areas. The outcome of the study shall be reflected on the formulation and implementation of Rural Life Improvement Training Program which will be developed first through the Model Training Center activities and then further implemented to the other ATI Training Centers in the expansion of the TSEPRLI.

A working group consisting of ATI-CO counterpart staff of TSEPRLI and the Japanese experts has been set up and has discussed further the content of the study. Hopefully with the assistance of the ATI Training Center Staff, the draft report of the study will be furnished by December 1997.

*Survey on ATI Training Center*

This study was conducted to identify the present activities and conditions of the ATI Training Centers, the outcome of which shall be considered during the formulation of the Training Program for RLI which would be applicable to the other Centers.

The survey questionnaires were distributed to all ATI Training Centers, and the data gathered shall be consolidated and analyzed in September and October. The final report will be submitted by December 1997.

**Input from the Philippine Side for the Project**  
**(for the period of June 1996 to August 1997)**

**1. Technical and Administrative Personnel**

Initially, ATI-Central Office (hereinafter referred to as CO) designated fifteen (15) personnel to constitute the Philippine counterparts of the Japanese experts in the implementation of the TSEP-RLI.

They are twelve (12) technical personnel and three(3) administrative staff. For the technical personnel, a Philippine counterpart experts for the following fields were designated.

- Training and Research
- Rural Life Improvement / Extension
- Community Development
- Rural Organization

Likewise, one driver was hired in the CO and in Model Center to facilitate the mobility of the Project Personnel.

The Central Office also gave authority for FTC-Bohol to hire one (1) driver and one (1) secretary.

**2. Provision of Physical Facilities, Furniture, Fixtures and Equipment**

ATI-CO and Bohol provided the Japanese experts an office space with corresponding furnitures and fixtures. ATI-CO also purchased two (2) airconditionaires each for the both Project offices in CO and in the Model Center

A temporary garage at the Model Center amounting to P30,000.00 was constructed to house the vehicles donated to the Center.

**3. Funding**

For CY 1996, the Project has an appropriation of P807,000.00 and released allotment amounting to P684,000.00 (net of mandatory reserves). For CY 1997, ATI augmented the amount under the regular allotment amounting to P280,000.00

Out of the amount released in CY 1996, P433,410.00 were released at the Model Center.

**4. Other Expenses**

Out of these allocation, all expenses for salaries of driver, traveling expenses, communication expenses, supplies and materials, gasoline, oil and lubricants, meals and snacks during meetings and conferences were also incurred.

**Input from the Japanese Side for the Project**  
**(for the period of June 1996 to August 1997)**

**1. Long Term Experts**

There has been altogether six (6) long term Experts assigned to this Project. Two of them assigned in the Central Office, Manila and four of them are assigned in Farmers Training Center, Bohol.

Their fields of expertise are as follows;

|                                     |              |
|-------------------------------------|--------------|
| Team Leader/ Institutional Building | (CO)         |
| Project Coordinator                 | (CO)         |
| Rural Life Improvement/Extension    | (FTC, Bohol) |
| Human Resources Development         | (FTC, Bohol) |
| Training Development                | (FTC, Bohol) |
| Community Development               | (FTC, Bohol) |

**2. Short Term Experts**

There had been two (2) short term Experts assigned by August 1997.

The engaged field of cooperation are as follows;

|                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| Community Development     | (1996/9/7~96/10/17) |
| Home Resources Management | (1997/3/21~97/4/12) |

**3. Training of the Philippine Counterpart Personnel in Japan**

Three counterpart trainings were completed as of August 1997. These were in the fields of Rural Development Plan (2 personnel) and Rural Life Improvement (1 personnel). There is the following plan of training for four (4) more counterpart personnel in this fiscal year. Two (2) of them will be from Central Office and be scheduled to participate in a training program from October this year for one (1) month, and the other two (2) will be from FTC Bohol.

**4. Provision of Equipment, Machinery and Other Materials**

Vehicles and some other equipment had been provided by the Japanese side. Main items are listed as follows.

|                   |                             |
|-------------------|-----------------------------|
| Four (4) vehicles | Two(2) Tamaraw FX, Toyota   |
|                   | One(1) Rosa Bus, Mitsubishi |
|                   | One(1) Pajero, Mitsubishi   |






Five (5) computers      Five (5) Presario Desk Top Computer, Compaq

Six (6) Printers      Six (6) Laser Printers, Hewlett Packard and Macintosh

Two (2) Copier Machine      Two (2) Copier Machine, Ricoh and Minolta

#### 5. Other Necessary Expenses

The main expenses incurred were for the hiring of the independent institute commissioned to conduct the Household Survey and the traveling expense of Japanese experts between Manila and Bohol, which totals up to thirty nine (39) trips altogether.

The other costs were provided for purchasing of necessary materials, like the fax machines, computer desks, bookshelves, etc.

大島

JK

Tentative Schedule of Implementation

| ACTIVITIES  | SCHEDULE |     |     |     |     |
|---|----------|-----|-----|-----|-----|
|   | 1st      | 2nd | 3rd | 4th | 5th |
| <b>(1) Participatory Trials of Rural Life Improvement Activities at the Selected Pilot Areas by the Model Center</b>  |          |     |     |     |     |
| a) Participatory survey and data collection on on-farm and off-farm productive activities and home and community life activities in rural areas<br>a-1: Selection of the pilot areas<br>a-2: Baseline Surveys<br>a-3: Issue-oriented surveys<br>b) Participatory activities of rural life improvement at the selected pilot areas<br>b-1: Planning and preparation of the rural life improvement activities<br>b-2: Support to the implementation of rural life improvement activities<br>b-3: Monitoring, documentation and analysis of the rural life improvement activities  |          |     |     |     |     |
| <b>(2) Formulation, Implementation and Evaluation of Training Program concerning Rural Life Improvement based on the activities mentioned in (1) above at the Model Center</b>  |          |     |     |     |     |
| a) Formulation, implementation and evaluation of training courses linked to the rural life improvement activities<br>a-1: Integration of the results of the analysis obtained from (1)-b-3 above into the training course development<br>a-2: Implementation and evaluation of training courses<br>b) Development of the Rural Life Improvement Training Program<br>b-1: Examination of the methods of design, monitoring and evaluation of the Training Courses for rural life improvement<br>b-2: Developing a Training Program for rural life improvement  |          |     |     |     |     |
| <b>(3) Modification of 2(b) and its Preliminary Implementation through the Initiative of the ATI-CO for the Expansion* of the Program to ATI network of Training Centers</b>  |          |     |     |     |     |
| a) Analysis and compilation of the outcomes from the activities listed in (1) and (2) above<br>a-1: Monitoring, processed documentation and analysis of the activities listed in (1) and (2) above.<br>a-2: Planning and implementation of a wrap-up workshop.<br>b) Modification, initial application and evaluation of the training program in the selected site(s)<br>b-1: Selection of the site(s) for initial expansion<br>b-2: Modification of the training program for rural life improvement mentioned in (2) above<br>b-3: Implementation of the modified training program in the selected site(s).<br>b-4: Monitoring and evaluation of the initial expansion.<br>c) Designing and conduct of training for the ATI Staff both at ATI-CO and Training Centers, and establishment of a system to ensure continuous staff training<br>c-1: Planning and formulation of the staff training program<br>c-2: Implementation of the staff training program |          |     |     |     |     |
| <b>(4) Delineation of the roles and functions and enhancement of the cooperative relationship between ATI and other institutions dealing with agricultural training and extension, inclusive of research institute, Local Government Units and Non-Government Organizations.</b>  |          |     |     |     |     |
| a) Surveys on the institutions related to agricultural training and extension<br>a-1: Survey on Rural Life Improvement Related policy and training programs of other national agencies, academic institutes, NGOs and LGUs<br>a-2: Survey on ATI Training Centers<br>a-3: Study on Agricultural Extension Services<br>b) Formulation and implementation of Cooperation Training Activity with selected institutions related to agricultural training and extension<br>b-1: Formulation of the Cooperation Training Activity<br>b-2: Implementation and monitoring of the Cooperation Training Activity  |          |     |     |     |     |

\* Expansion here means the implementation of rural life improvement training Program with limited assistance from TSEPRLI.

Abbreviations The Model Center: Farmers Training Center, Bohol  
ATI-CO: Agricultural Training Institute, Central Office

Comparative Chart for Tentative Schedule of Implementation (TSEPRLI)

| The Original (Signed April 1996)   | Revised, TSI (September 1997)  |
|--|--|
| <p>(1) Participatory Trials of Rural Life Improvement at the Selected Pilot Areas by the Model Center</p> <p>a) Participatory survey and data collection on on-farm and off-farm productive activities and home and community life activities in rural areas</p> <p>b) Development of rural groups and examination of their technologies for local resource utilization</p> <p>c) Support to and demonstration of the rural life improvement and total life planning tried by the rural groups</p> | <p>(1) Participatory Trials of Rural Life Improvement Activities at the Selected Pilot Areas by the Model Center</p> <p>a) Participatory survey and data collection on on-farm and off-farm productive activities and home and community life activities in rural areas</p> <p>a-1: Selection of the pilot areas</p> <p>a-2: Baseline Surveys</p> <p>a-3: Issue-oriented Surveys</p> <p>b) Participatory activities of rural life improvement at the selected pilot areas</p> <p>b-1: Planning and preparation of the rural life improvement activities</p> <p>b-2: Support to implementation of rural life improvement activities</p> <p>b-3: Monitoring, documentation and analysis of the rural life improvement activities</p>   |
| <p>(2) Formulation, Implementation and Evaluation of Training Program concerning Rural Life Improvement based on the activities mentioned in (1) above at the Model Center</p>   | <p>-Ditto-</p>   |
| <p>a) Analysis and compilation of the data obtained from the activities listed in (1) above for the feedback to the local people</p> <p>b) Formulation, implementation and evaluation of training programs concerning rural life improvement</p> <p>c) Examination of the methods of design, monitoring and evaluation of the Training Program</p>   | <p>a) Formulation, implementation and evaluation of training courses linked to the rural life improvement activities</p> <p>a-1: Integration of the results of the analysis obtained from (1)-b-3 above into the training course development</p> <p>a-2: Implementation and evaluation of training courses</p> <p>b) Development of the Rural Life Improvement Training Program</p> <p>b-1: Examination of the methods of design, monitoring and evaluation of the Training Courses for rural life improvement</p> <p>b-2: Developing a Training Program for rural life improvement</p>  |
| <p>(3) Formulation and implementation of the Programs at the ATI CO for Modification and Replication of the outputs of the activities to be applied to ATI Training Centers all over the country</p>   | <p>(3) Modification of 2(b) and it's Preliminary Implementation through the Initiative of the ATI-CO for the Expansion* of the Program to ATI network of Training Centers</p>  |
| <p>a) Analysis and compilation of the outcomes from the activities listed in (1) and (2) above</p> <p>b) Formulation, implementation and evaluation of training curriculum for rural life improvement applicable to the other ATI training Centers</p> <p>c) Designing and conduct of training for the ATI Staff both at ATI-CO and Training Centers, and establishment of a system to ensure continuous staff training</p>  | <p>a) Analysis and compilation of the outcomes from the activities listed in (1) and (2) above</p> <p>a-1: Monitoring, processed documentation and analysis of the activities listed in (1) and (2) above.</p> <p>a-2: Planning and implementation of a wrap-up workshop.</p> <p>b) Modification, initial application and evaluation of the training program in the selected site(s)</p> <p>b-1: Selection of the site(s) for initial expansion</p> <p>b-2: Modification of the training program for rural life improvement mentioned in (2) above</p> <p>b-3: Implementation of the modified training program in the selected site(s).</p> <p>b-4: Monitoring and evaluation of the initial expansion.</p> <p>c) Designing and conduct of training for the ATI Staff both at ATI-CO and Training Centers, and establishment of a system to ensure continuous staff training</p> <p>c-1: Planning and formulation of the staff training program</p> <p>c-2: Implementation of the staff training program</p> |

| The Original (Signed April 1996)  | Revised TSI (September 1997)  |
|---|---|
| (4) Delineation of the roles and functions and enhancement of the cooperative relationship between ATI and other institutions dealing with agricultural training and extension, inclusive of research institute, Local Government Units and Non-Governmental Organizations. | -Ditto-   |
| <p>a) Surveys on the institutions related to agricultural training and extension</p> <p>b) Formulation and implementation of ATI cooperation program with other institutions related to agricultural training and extension</p>   | <p>a) Surveys on the institutions related to agricultural training and extension</p> <p>a-1: Survey on Rural Life Improvement Related policy and training programs of other national agencies, academic institutes, NGOs and LGUs</p> <p>a-2: Survey on ATI Training Centers</p> <p>a-3: Study on Agricultural Extension Services</p> <p>b) Formulation and implementation of the RLI Training Cooperation Activities with selected institutions related to agricultural training and extension</p> <p>b-1: Formulation of the RLI Cooperation Training Activity</p> <p>b-2: Implementation and monitoring of the RLI Cooperation Training Activity</p> |

\* Expansion here means the implementation of rural life improvement training Program with limited assistance from TSEPRLI.

**Abbreviations**

The Model Center: Farmers Training Center, Bohol  
ATI-CO: Agricultural Training Institute, Central Office

**Explanatory Note for Revision of the TSI**

**TSI Item (1)**

**<Participatory Trials of Rural Life Improvement at the Selected Pilot Areas by the Model Center>**

The word "activities" was added after the "Rural Life Improvement" in order to distinguish clearly the RLI activities conducted by the initiative of the barangay people, from the RLI Training Courses to be conducted by the Model Center.

The revised Item(1) is as follows;

**TSI Item (1)**

**<Participatory Trials of Rural Life Improvement Activities at the Selected Pilot Areas by the Model Center>**

Taking into account that this part actually consists of two main activities: that is to understand fully the actual conditions and situation of the people's total life activities at the selected model barangays by conducting various surveys; and to plan and implement the necessary rural life improvement activities which would be identified in the various survey and discussion with the local people.

Since the former item b) is considered to be already included as one of the important activities in c), they are redefined as follows;

*a) Participatory survey and data collection on on-farm and off-farm productive activities and home and community life activities in rural areas*

*b) Participatory activities of rural life improvement at the selected pilot areas*

The detailed activities for item a) are as follows

*a-1: Selection of the pilot areas*

*a-2: Baseline Surveys*

Three surveys has been or are being conducted; i.e. the Community Survey, Household Survey and the Individual Sampling Survey.

*a-3: Issue-oriented surveys*

A detailed surveys to know further about the rural life shall be conducted periodically after the Individual Sampling Survey, in order to monitor or to reflect

the results to the actual Trial rural life improvement activities at the Model Barangays.

The detailed activities for item b) are as follows

***b-1: Planning and preparation of the rural life improvement activities***

To plan and prepare for the RLI activities at the model barangays would mean to identify, select or organize a local group if there is no existing group who would initiate the RLI activity, and also to develop a collaborative relationship with the municipal and barangay officers.

This item will focus on the examination of the technologies for local resource utilization for the planning stage, and establishment of rural groups if in any case necessary for the preparation stage of implementation RLI trial activities at the model barangays.

***b-2: Support to the rural life improvement activities***

Actual support activities for the Project to implement the RLI activities at the selected barangays.

***b-3: Monitoring, documentation and analysis of the rural life improvement activities***

The activities being implemented by the local people are to be documented in order to monitor and evaluate the activities effectively. Knowing its importance there is a need to include this specific activity which was not mentioned in item 1 of originally signed TSI.

大島

AB

**Item (2)**

**<Formulation, Implementation and Evaluation of Training Program concerning Rural Life Improvement based on the activities mentioned in (1) above at the Model Center>**

The former activities listed here were,

*a) Analysis and compilation of the data obtained from the activities listed in (1) above for the feedback to the local people*

*b) Formulation, implementation and evaluation of training programs concerning rural life improvement*

*c) Examination of the methods of design, monitoring and evaluation of the Training Program*

Since the activity described in a) is better to be included as one of the included activities for the trial implementation of the RLI activities, it is eliminated from item 2.

The original purpose of implementing the trial RLI activities at the selected model barangays, is to develop or strengthen the RLI related training courses which eventually will be developed as one set of RLI Training Program.

From this point of view, this item can be divided into two major activities which are;

*a) Formulation, implementation and evaluation of training courses linked to the rural life improvement activities,*

and

*b) Development of the Rural Life Improvement Training Program*

Further detailed activities for item a) can be defined as follows;

*a-1: Integration of the results of the analysis obtained from (1)-b-3 above into the training course development*

*a-2: Implementation and evaluation of training courses*

The detailed activities for item b) are as follows

*b-1: Examination of the methods of design, monitoring and evaluation of the Training Course for rural life improvement*

*b-2: Developing a Training Program for rural life improvement*

**Item(3)**

**<Formulation and implementation of the Programs at the ATI-CO for Modification and Replication of the outputs of the activities to be applied to ATI Training Centers all over the country.>**

The formulation of the RLI Training Program applicable to other area, is actually the objective of the modification of the RLI Training Program developed in Bohol, and so the word "modification" is more suitable to explain the intention of this Project.

The word replication here is supposed to mean the implementation of the modified RLI Training Program to the other areas through ATI network of Training Centers. But by using the word replication, it would rather sound as if it is something more experimental and would be inappropriate to express the actual significance of extending the modified RLI Training Program. From this point of view, the word "expansion" would be more appropriate to be used.

Taking into account the above mentioned situation, it would be more comprehensive to state the item (3) as follows;

**(3) Modification of 2(b) and it's Preliminary Implementation through the Initiative of the ATI-CO for the Expansion of the Program to ATI network of Training Centers**

Actual implementation of this expansion will be done in other area(s) in which the location and the number is to be discussed during the third year of the Project implementation.

So for Item(3), it can be said that this is the initial stage of its expansion.

The Japanese side's assistance during this period will be limited as compared to the Bohol's Model Center activities, which was already discussed and agreed during the discussion with Implementation Survey Team.

Taking into account the above mentioned situation, , the outline of the activities which is to be covered under this item will be as follows;

**a) Analysis and compilation of the outcomes from the activities listed in (1) and (2) above**

There was no change in this statement

The detailed activities identified here are as follows;

**a-1:Monitoring, process documentation and analysis of the activities listed in (1) and (2) above.**

**a-2:Planning and implementation of a wrap-up workshop.**





***b) Modification, initial application and evaluation of the training program in the selected site(s)***

The word "modification" is appropriate to be used than the original word, formulation, since to formulate the RLI Training Program at the next expansion site means to modify the RLI Training Program developed in Bohol.

The detailed activities for item b) are as follows;

***b-1: Selection of the site(s) for initial expansion***

***b-2: Modification of the training program for rural life improvement mentioned in (2) above***

***b-3: Implementation of the modified training program in the selected site(s).***

***b-4: Monitoring and evaluation of the initial expansion.***

***c) Designing and conduct of training for the ATI Staff both at ATI-CO and Training Centers, and establishment of a system to ensure continuous staff training***

There was no change in this statement.

The detailed activities to be covered here are identified as follows;

***c-1: Planning and formulation of the staff training program***

***c-2: Implementation of the staff training program***

天島

ATC

**Item (4)**

**<Delineation of the roles and functions and enhancement of the cooperative relationship between ATI and other institutions dealing with agricultural training and extension, inclusive of research institute, Local Government Units and Non-Government Organizations>**

The statement for the activities in this item was agreed to be as it is.

The detailed activities identified in item a) are as follows;

**a) Surveys on the institutions related to agricultural training and extension**

**a-1: Survey on Rural Life Improvement Related policy and training programs of other national agencies, academic institutes, NGOs and LGUs**

**a-2: Survey on ATI Training Centers**

**a-3: Study on Agricultural Extension Services**

As for the item b), the expression "ATI cooperation program with other institutions" was changed to "Rural Life Improvement Cooperation Training Activity with selected institutions".

The RLI Cooperation Training Activity here will not include the evaluation within the period of this Project. However, it is to be noted that the evaluation will be conducted through the initiative of ATI after the Project cooperation period.

**b) Formulation and implementation of the RLI cooperation training activity with selected institutions related to agricultural training and extension**

**b-1: Formulation of the RLI cooperation training activity.**

**b-2: Implementation and monitoring of the RLI cooperation training activity.**